

科目名	医学概論	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	西村 忠郎	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

一般人としての医学常識を身につけ、新聞、雑誌およびテレビなどの医学に関する記事や番組の理解と判断が適切に出来る基礎を養成するよう授業をおこなう。さらに、音楽専攻の大学生として、また将来の音楽家としての医学とのかかわりについても言及する。

●履修上の条件及び履修の方法

講義を聞くだけでなく、積極的に質問、発言をしてほしい。

●試験方法及び成績評価方法

レポート

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：コメディカルの医学概論、著者名：北村論、出版社：中外医学社

●授業内容

第1～13回

以下の7項目を中心に授業をする。

- ① 医学の歴史
- ② 医の倫理
- ③ 人体の構造と機能
- ④ 音の出るしくみと発声・共鳴のメカニズム
- ⑤ 主要な疾患Ⅰ（内科・小児科疾患など）
- ⑥ 主要な疾患Ⅱ（耳鼻咽喉科疾患 他）
- ⑦ 医学の常識（ガン、認知症、医療事故など）

第14～15回 試験期間

科目名	イタリア語会話Ⅰ A,B,C	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	ジョバンニ・ニューディ	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

このクラスは、イタリア語会話を教える。いろいろな場面を想定して、その場面に応じた会話と表現と考え方を練習し、イタリアに行ったときに、困らない程度の語学力を身につけるようにする。

●履修上の条件及び履修の方法

イタリア語基礎Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。

●試験方法及び成績評価方法

試験（50%）、出席状況（50%）

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Grammar review. Introducing oneself. Asking simple questions
- ↓
- 4回
- 5回 Tomorrow's plans: "Che cosa fai domani"
- ↓
- 6回
- 7回 Regular and irregular verbs. Inviting friends: "Andiamo insieme?"
- ↓
- 11回
- 12回 Conversation practice
- ↓
- 13回
- 14回 Review and exam
- ↓
- 15回

科目名	イタリア語会話Ⅱ A,B,C	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	ジョバンニ・ニューディ	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

基本的に会話Ⅰを継続して授業を進めるが、より以上の文法的な説明も加えて内容の充実をはかる。

●履修上の条件及び履修の方法

イタリア語基礎Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。

●試験方法及び成績評価方法

試験（50％）、出席状況（50％）

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 Introduction to the course
- 2回 ↓
- 3回 Review of first semester material
- 4回 Asking information
- 5回 Past tense (passato prossimo). Conjugation and examples.
Tastes: "Ti piace la pizza?"
- 7回 ↓
- 8回 Writing practice. Asking about yesterday's activities:
"Che cosa hai fatto ieri?"
- 10回 ↓
- 11回 Putting all together: more complex conversations.
- 13回 ↓
- 14回 Review and exam
- 15回 ↓

科目名	イタリア語会話Ⅲ	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	ジョバンニ・ニューディ	単位	1	年次	3

●授業科目の目標

会話Ⅰ,Ⅱをさらに進めて、いろいろな状況を設定して語彙と文法的な力をステップアップする。

●履修上の条件及び履修の方法

会話Ⅰ,Ⅱを履修していること。

●試験方法及び成績評価方法

試験（50％）、出席状況（50％）

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Review of grammar and basic conversation
- 3回 ↓
- 4回 Asking information. "Dov'è la stazione?"
- 5回 ↓
- 6回 Conversation practice. Past tense, irregular verbs.
Talking about past activities
- 11回 ↓
- 12回 Reflexive verbs
- 13回 ↓
- 14回 Review and exam
- 15回 ↓

科目名	イタリア語会話Ⅳ	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	ジョバンニ・ニューディ	単位	1	年次	3

●授業科目の目標

会話Ⅰ、Ⅱをさらに進めて、いろいろな状況を設定して語彙と文法的な力をステップアップする。

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

試験（50％）、出席状況（50％）

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Review of first semester material
- ↓
- 3回
- 4回 Conversation using "dovere, volere, potere"
- ↓
- 6回
- 7回 Asking directions, giving explanations
- ↓
- 8回
- 9回 Reflexive verbs. Present tense and past tense. Conversation practice.
- ↓
- 11回
- 12回 Conversation practice on reflexive verbs.
- ↓
- 13回
- 14回 Review and exam
- ↓
- 15回

科目名	イタリア語基礎Ⅰ A,B	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	ヴィタルッチ ダニエレ	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

イタリア語の基礎的な文法と語彙を学び、簡単な文が作れるようにする。

●履修上の条件及び履修の方法

单元ごとに、その单元での履修目標となる文法を含んだ短い文章を読み、中心となる文法について、色々な例をあげながら説明し、練習問題で演習する。

●試験方法及び成績評価方法

出席率25%、授業への参加態度25%、口答テスト50%

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 あいさつ
- 3回 自己紹介
- 4回 誰かを紹介する
- 5回 ていねいな言い方
- 6回 親しい間柄の言い方
- 7回 発言
- 8回 これは〇〇ですの言い方
- 9回 "...un famoso pianista jazz italiano."
- 10回 冠詞
- 11回 文のならび
- 12回 名詞
- 13回 形容詞
- 14回 名詞と形容詞
- 15回 動詞の現在形

科目名	イタリア語基礎ⅠC,D	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	ジョバンニ・ニューディ	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

この講義は、基礎会話と基礎文法を学ぶことを目指す。

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

試験（50％）、出席状況（50％）

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Introducing oneself, numbers, genre of names, singular and plural. Indefinite article.
- ↓
- 6回 Definite article, regular verbs and conjugations: -are, -ere, -ire.
- ↓
- 10回
- 11回 Irregular verbs
- ↓
- 13回
- 14回 Prepositions, review and exam
- ↓
- 15回

科目名	イタリア語基礎Ⅱ A,B	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	ヴィタルッチ ダニエレ	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

イタリア語の基礎的な文法と語彙を学び、簡単な文が作れるようにする。

●履修上の条件及び履修の方法

单元ごとに、その单元での履修目標となる文法を含んだ短い文章を読み、中心となる文法について、色々な例をあげながら説明し、練習問題で演習する。

●試験方法及び成績評価方法

出席率25％、授業への参加態度25％、口答テスト50％

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 年令の言い方
- 2回 31までの数字
- 3回 “Sono nato a ...”
- 4回 “Ho cominciato a studiare...”
- 5回 動詞の未来形
- 6回 ジェルンディオ
- 7回 助動詞
- 8回 副詞
- 9回 感嘆詞
- 10回 “Enrico è stato per me..”
- 11回 動詞の過去形
- 12回 原形動詞
- 13回 接続詞
- 14回 文法のまとめ part 1
- 15回 文法のまとめ part 2

科目名	イタリア語基礎ⅡC,D	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	ジョバンニ・ニューディ	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

基本的にイタリア語基礎Ⅰを継続して授業を進めます。

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

試験（50％）、出席状況（50％）

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 Introduction to the course
 2回 Review of first semester material
 ↓
 3回
 4回 Adjectives
 5回 Special verbs: dovere, volere, potere. Irregular verbs
 ↓
 9回
 10回 Writing practice, new vocabulary
 ↓
 11回
 12回 Past tense
 ↓
 13回
 14回 Review and exam
 ↓
 15回

科目名	イタリア語講読Ⅰ	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	ジョバンニ・ニューディ	単位	1	年次	3

●授業科目の目標

Acquire the ability to consult the dictionary and to read modern italian.

●履修上の条件及び履修の方法

基礎Ⅰ・Ⅱが受かっていること。

●試験方法及び成績評価方法

試験（50％）、出席状況（50％）

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 Introduction to the course
 2回 Reading practice: present tense
 ↓
 5回
 6回 Reading practice: past tense. Modern songs.
 ↓
 13回
 14回 Review and exam
 ↓
 15回

科目名	イタリア語講読Ⅱ	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	ジョバンニ・ニューディ	単位	1	年次	3

●授業科目の目標

Building on the abilities acquired during the first semester, increase reading capability.

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

試験（50％）、出席状況（50％）

●テキスト（必携）

伊和辞典

●授業内容

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Reading practice: future tense, reflexive verbs
- ↓
- 5回
- 6回 Reading practice: past tense (imperfetto)
- ↓
- 13回
- 14回 Review and exam
- ↓
- 15回

科目名	イタリア語中級Ⅰ	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	ヴィタルッチ・ダニエシ	単位	1	年次	2～

●授業科目の目標

イタリア語の基礎的な文法と語彙を学び、簡単な文を作れるようにする。

●履修上の条件及び履修の方法

单元ごとに、その单元での履修目標となる文法を含んだ短い文章を読み、中心となる文法について、いろいろな例をあげながら説明し、練習問題で演習する。

●試験方法及び成績評価方法

出席率25％、授業への参加態度25％、口答テスト50％

●テキスト（必携）

書籍名：使える イキイキ イタリア語
著者名：中矢慎子/Anna Esposito 出版社：学習研究社

●授業内容

- 1回 単数形容詞
- 2回 疑問詞 “che”
- 3回 複数形容詞
- 4回 数 (Euro(について))
- 5回 疑問詞 “quanto”
- 6回 数・量の表し方
- 7回 動詞 “～are”
- 8回 動詞 “～iare”
- 9回 動詞 “～care” “～gare”
- 10回 不規則動詞 “～are”
- 11回 動詞 “～ere”
- 12回 非人称動詞 Part1
- 13回 “ ” Part2
- 14回 文法のまとめ Part1
- 15回 “ ” Part2

科目名	イタリア語中級Ⅱ	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	ヴィタルッチ・ダニエシ	単位	1	年次	2～

●授業科目の目標

イタリア語の基礎的な文法と語彙を学び、簡単な文が作れるようにする。

●履修上の条件及び履修の方法

単元ごとに、その単元での履修目標となる文法を含んだ短い文章を読み、中心となる文法について、色々な例をあげながら、説明し、練習問題で演習する。

●試験方法及び成績評価方法

出席率25%、授業への参加態度25%、口答テスト50%

●テキスト（必携）

書籍名：使える イキイキ イタリア語
 著者名：中矢慎子/Anna Esposito 出版社：学習研究社

●授業内容

- 1回 動詞“ire” Part1
- 2回 “ ” Part2
- 3回 未来形
- 4回 過去形
- 5回 avereを使う過去形
- 6回 essere “ ”
- 7回 avereを使う過去形とessereを使う過去形の違い
- 8回 時刻の表し方 Part1
- 9回 “ ” Part2
- 10回 疑問詞“perché”
- 11回 疑問詞“quando”
- 12回 疑問詞“che cosa”、“che cosa”と“che”の違い
- 13回 “dove”と“di dove”の違い
- 14回 文法のまとめ Part1
- 15回 文法のまとめ Part2

科目名	いのちと倫理	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	宇治谷 顕	単位	2	年次	3

●授業科目の目標

多様化する現代社会において、最重要課題である「生命倫理」の問題をとりあげる。若者たちの自殺、高齢化社会の到来、医療の進歩に伴う臓器移植及び死を目前にひかえた人々に対するターミナルケアなど様々な問題が山積し、生命倫理に関する議論の重要性が認知されている。特に今日的課題である「いのちの尊厳」に対する無関心・無責任な風潮に着目し、具体的事例を参照しながら「生と死」の問題について攻究する。資料として、古代ギリシャの哲学者たちの考え方、及びキリスト教、仏教の経典の中からの言葉を参考にし、「いのちの尊厳」及び「共生するいのち」についてあきらかにし、その理解を深めていく。受講生には、一人ひとりの生活体験をもとに「いのちの課題」についての問題を提起させ、全体での議論を深めていきたい。

●履修上の条件及び履修の方法

教員免許状取得を希望する者は、総合演習8科目のうちいずれか一つを履修しなければならないが、本科目はその一つである。討論を主体とした演習科目であるので、人数制限を行なう。一人一回は発表を行うことを希望するので、自分なりに取り組みたいテーマを考えておくこと。毎回必ず出席し、授業に主体的に参加すること。

●試験方法及び成績評価方法

試験は行なわない。成績評価は、授業内での各自にテーマを設定した報告発表、または感想文やレポート提出により、それらを総合的に判断して行なう。その際、出席状況及び授業への取り組み姿勢も重要な判断基準となる。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1. ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認
- 2. 生命倫理の課題と今日の問題
- 3. 古代ギリシャの生命倫理。ギリシャ悲劇にみる生と死
- 4. “ ”
- 5. 古代ギリシャの生命倫理。ソクラテスとプラトンにみる生と死
- 6. “ ”
- 7. 仏教の生命倫理。特に釈尊のおしえにみる生と死
- 8. “ ”
- 9. “ ”
- 10. 「生と死」の現代観について
- 11. “ ”
- 12. 共生するいのち
- 13. “ ”
- 14. 生命倫理の発揚と現代観
- 15. 試験

科目名	一般治療学	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	西村 忠郎	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

一般人としての医学常識を身につけ、新聞、雑誌およびテレビなどの医学に関する記事や番組の理解と判断が適切に出来る基礎を養成することを目標とする。
さらに、音楽専攻の大学生として、また将来の音楽家としての医学とのかかわりについても言及する。

●履修上の条件及び履修の方法

講義を聞くだけでなく、積極的に質問、発言をしてほしい。

●試験方法及び成績評価方法

レポート

●テキスト（必携）

＜No.1.＞書籍名：コメディカルの医学概論、著者名：北村諭、出版社：中外医学社

●授業内容

第 1～13回

以下の①～⑤を中心に授業をおこなう。

- ① 子供の病気、予防、救急対処法
- ② 老人の病気、看護、介護など
- ③ ダイエットや睡眠時無呼吸症の治療
- ④ 妊娠、出産、育児のケア
- ⑤ 重要疾患の治療と対処法（心筋梗塞、ガン、アレルギー疾患など）

第14～15回 試験期間

科目名	インターンシップⅠ	形態	実習	開講期	春学期
担当教員	栗原 幸江	単位	1	年次	3

●授業科目の目標

実社会における専門的な分野の体験学習をする。さまざまな、分野の研修を重ねることにより、自分の進路の指針となるように努める。

●履修上の条件及び履修の方法

- ①事前指導を必ず受講すること。
- ②インターンシップ期間中は、実習先の風紀、秩序維持に努め実習先の名誉を毀損するような行動や秘密に属する事項の遺漏などは一切しないこと。
- ③実習先の指導担当者の指揮及び監督に従うこと。
- ④無断で欠席をしないこと。
- ⑤学生が上記事項を遵守しない場合は、直ちにインターンシップを休止する。

●試験方法及び成績評価方法

実習中に作成する「実習記録」及び終了後作成する「実習報告書」をもとに実習先及び本学担当者との協議により総合的に評価を行う。

●テキスト（必携）

●授業内容

第1回～ 2回
第3回～15回

事前研修
インターンシップ実習
※インターンシップとして、受け入れ先が決まり次第、内容の確認と日程調整を計る。
※実習中の体験については、毎日の研修内容を詳細にレポートにまとめ、卒業後の進路の指針とする。

科目名	インターンシップⅡ	形態	実習	開講期	秋学期
担当教員	栗原 幸江	単位	1	年次	3

●授業科目の目標

実社会における専門的な分野の体験学習をする。さまざまな分野の研修を重ねることにより、自分の進路の指針となるように努める。

●履修上の条件及び履修の方法

- ①事前指導を必ず受講すること。
- ②インターンシップ期間中は、実習先の風紀、秩序維持に努め実習先の名誉を毀損するような行動や秘密に属する事項の遺漏などは一切しないこと。
- ③実習先の指導担当者の指揮及び監督に従うこと。
- ④無断で欠席をしないこと。
- ⑤学生が上記事項を遵守しない場合は、直ちにインターンシップを休止する。

●試験方法及び成績評価方法

実習中に作成する「実習記録」及び終了後作成する「実習報告書」をもとに実習先及び本学担当者との協議により総合的に評価を行う。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 第1回～ 2回
第3回～15回
- 事前研修
インターンシップ実習
※インターンシップとして、受け入れ先が決まり次第、内容の確認と日程調整を計る。
※実習中の体験については、毎日の研修内容を詳細にレポートにまとめ、卒業後の進路の指針とする。

科目名	インターンシップⅢ	形態	実習	開講期	春学期
担当教員	栗原 幸江	単位	1	年次	4

●授業科目の目標

インターンシップⅠ・Ⅱで行った経験を生かし、現場に出向きさらに深く体験する。

●履修上の条件及び履修の方法

- ①事前指導を必ず受講すること。
- ②インターンシップ期間中は、実習先の風紀、秩序維持に努め実習先の名誉を毀損するような行動や秘密に属する事項の遺漏などは一切しないこと。
- ③実習先の指導担当者の指揮及び監督に従うこと。
- ④無断で欠席をしないこと。
- ⑤学生が上記事項を遵守しない場合は、直ちにインターンシップを休止する。

●試験方法及び成績評価方法

実習中に作成する「実習記録」及び終了後作成する「実習報告書」をもとに実習先及び本学担当者との協議により総合的に評価を行う。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 第1回～ 2回
第3回～15回
- 事前研修
インターンシップ実習
※インターンシップとして、受け入れ先が決まり次第、内容の確認と日程調整を計る。
※実習中の体験については、毎日の研修内容を詳細にレポートにまとめ、卒業後の進路の指針とする。

科目名	インターンシップⅣ	形態	実習	開講期	秋学期
担当教員	栗原 幸江	単位	1	年次	4

●授業科目の目標

最終学年として、卒業後の就職も視野に入れながら、実社会での体験学習を深めていく。また、これらの機会をもとにレポートにまとめることも卒業の課題として取り組んでいく。

●履修上の条件及び履修の方法

- ①事前指導を必ず受講すること。
- ②インターンシップ期間中は、実習先の風紀、秩序維持に努め実習先の名誉を毀損するような行動や秘密に属する事項の遺漏などは一切しないこと。
- ③実習先の指導担当者の指揮及び監督に従うこと。
- ④無断で欠席をしないこと。
- ⑤学生が上記事項を遵守しない場合は、直ちにインターンシップを休止する。

●試験方法及び成績評価方法

実習中に作成する「実習記録」及び終了後作成する「実習報告書」をもとに実習先及び本学担当者との協議により総合的に評価を行う。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 第1回～ 2回
第3回～ 15回
- 事前研修
インターンシップ実習
※インターンシップとして、受け入れ先が決まり次第、内容の確認と日程調整を計る。
※実習中の体験については、毎日の研修内容を詳細にレポートにまとめ、卒業後の進路の指針とする。

科目名	ヴォーカルアンサンブルⅠ～Ⅷ	形態	実習	開講期	春・秋
担当教員	森 久子	単位	1	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

発声練習時に、ハーモニー、リズム等を体感し、アンサンブルにより、さらに音楽基礎の知識を深めると共に、グループサウンドを作っていく向上心を持ち、さらに豊かな表現力が身につくことを目標とする。

●履修上の条件及び履修の方法

ジャズ、ポピュラーヴォーカル専攻生は必修。他は選択。

●試験方法及び成績評価方法

出席日数、日頃の授業態度。授業内で、試験を行う。

●テキスト（必携）

●授業内容

- (春・秋)
- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
2回 ストレッチ、発声練習（メジャースケール）スタンダードジャズ（Love, I got Rhythm等）個々のkeyで譜面作成コードをつける
- 3回 " "
4回 " "
↓
9回 " "
10回 " " イントロ、エンディングをつける
↓
14回 " "
15回 試験

科目名	英語会話 I A,B,C	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	ロイド・バークレイ	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

The objective of this class will be to teach basic vocabulary and grammar which will allow the students to communicate in basic conversation.

●履修上の条件及び履修の方法

Each lessons will comprise 3 phases- “Present” , “Practice” and “Produce” . “Present” will comprise model conversations. “Practice” will consist of structured exercises. “Produce” will involve the students in communicative activities.

●試験方法及び成績評価方法

Attendance:25% ,Participation:25% ,Test:50%

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 Introductions
- 2回 Jobs
- 3回 Shopping
- 4回 Entertainment
- 5回 Family
- 6回 Sports
- 7回 Free-Time,Weekend Activities
- 8回 Test
- 9回 Conclusion
- ↓
- 15回

科目名	英語会話 I D	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	溝口 良子	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

外国の人々とコミュニケーションができるための基本を演習します。

- ①生活一般に関する話題（詳細は授業計画）で話ができるよう教科書にそって練習します。
- ②ロールプレイを英語だけで行ない表現を定着させます。
- ③基本的文法と不規則動詞の変化を定着させ、伝えたいことを自分で文を創り出して言える力を養います。

●履修上の条件及び履修の方法

積極的に授業に参加し、ペアの人以外との英語だけのロールプレイにも挑むことが要求されます。また、多読用小冊子を読んだブックレポートの提出も必要です。

●試験方法及び成績評価方法

出席状況、授業内での参加度、口答テストにより総合的に評価します。

●テキスト（必携）

書籍名 : Get Real① new edition
 著者名 : Angela Buckingham, Miles Craven and David Williamson
 出版社 : Mac Millan 備考 : ISBN9784777361519

●授業内容

- 1回 Unit1 Hi there 自己紹介
- 2回 Unit1 Where do you work? 仕事
- 3回 Unit2 I never get up late. 毎日の行動
- 4回 Unit2 I do karaoke on Wednesdays. 余暇の過ごし方
- 5回 Unit3 Can you use a computer? 仕事の面接
- 6回 Unit3 I can play basketball. スポーツ
- 7回 review Unit1-3
- 8回 Unit4 My perfect date likes music. 趣味と興味
- 9回 Unit4 I like Italian food. 性格とデート
- 10回 Unit5 Can you call back later? 電話での会話
- 11回 Unit5 It's snowing. 天候
- 12回 Unit6 How do I get to the bank? 道案内
- 13回 Unit6 Where can I buy a ticket? 駅での会話
- 14回 review Unit4-6
- 15回 実技試験

科目名	英語会話ⅡA,B,C	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	ロイド・バークレイ	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

The objective of this class will be to teach basic vocabulary and grammar which will allow the students to communicate in basic conversation.

●履修上の条件及び履修の方法

Each lesson will comprise 3 phases- “Present” “Practice” and “Produce”. “Present” will comprise model conversations. “Practice” will consist of structured exercises. “Produce” will involve students in communicative activities.

●試験方法及び成績評価方法

Attendance:25% Participation:25% Test:50%

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 Neighborhood
- 2回 Appearances
- 3回 Life Experiences
- 4回 Cities
- 5回 Health Problems
- 6回 Food and Restaurants
- 7回 Geography
- 8回 Test
- 9回 Conclusion
- ↓
- 15回

科目名	英語会話Ⅱ D	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	溝口 良子	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

外国の人々誤解なくコミュニケーションができるための基本を演習します。

- ①生活一般に関する話題（詳細は授業計画）で話ができるよう教科書にそって練習します。
- ②ロールプレイを行ない表現を定着させます。
- ③基本的文法と不規則動詞の変化を定着させ、伝えたいことを自分で文を創り出して言える力を養います。

●履修上の条件及び履修の方法

積極的に授業に参加し、ペアの人以外とのロールプレイにも挑むことが要求されます。また、多読用小冊子を読んだブックレポートの提出も必要です。

●試験方法及び成績評価方法

出席状況、授業内での参加度、口答テストにより総合的に評価します。

●テキスト（必携）

書籍名：Get Real① new edition
 著者名：Angela Buckingham, Miles Craven and David Williamson
 出版社：Mac Millan 備考：ISBN9784777361519

●授業内容

- 1回 Unit7 Would you like to go to the movies? 約束
- 2回 Unit7 I'm babysitting on Thursday. 予定
- 3回 Unit8 How much do you spend each month? お金
- 4回 Unit8 I'm looking for a DVD player. 買い物
- 5回 Unit9 I'm going to get a job. 将来の計画と予想
- 6回 Unit9 I'm going to go sightseeing. 休暇の計画
- 7回 review Unit7-9
- 8回 Unit10 Please don't play loud music. ルール
- 9回 Unit10 Add some salt and pepper. 料理
- 10回 Unit11 Yesterday was a really bad day. 過去のこと
- 11回 Unit11 I have a headache. 健康
- 12回 Unit12 Ten years ago I was a student. 生活の変化
- 13回 Unit12 How was your vacation? 休暇
- 14回 review Unit10-12
- 15回 実技試験

科目名	英語基礎 I A,B,C	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	溝口 良子	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

意思伝達的手段として、読み、書き、聞き、話せる、総合的な基礎の習得および英語圏の文化への理解、その地域での自己表現の仕方などの習得を目指します。特に海外に一人旅ができる会話力の習得に力を入れます。また、メールの書き方や、TOEICを使ったリスニング、多読も取り入れ、4技能のバランスを図ります。

●履修上の条件及び履修の方法

積極的に授業に参加し、ロールプレイや英語を使ったアクティビティにも挑む姿勢が求められます。また多読用小冊子を読んだブックレポートの提出も必要です。

●試験方法及び成績評価方法

出席状況、ブックレポートの枚、積極的な態度や参加度、および筆記試験の成績等で総合評価します。遅刻、私語、居眠、教科書不携帯などは減点対象とします。

●テキスト（必携）

書籍名：New Headway Beginner 著者名：John Murphy
 出版社：Oxford university press
 備考：ISBN 0-19-458178-0

●授業内容

- 1回 自己紹介、あいさつを英語で
- 2回 New Headway Episode 1 面接の応答（経歴など）
- 3回 " 好き嫌い趣味など
- 4回 " 新聞広告
- 5回 Episode 1 を使ったrole playなどでreview（復習）
- 6回 New Headway Episode 2 仕事の紹介
- 7回 " "（自分について）
- 8回 " 仕事での会話
- 9回 Episode 2 を使ったrole playなどでreview（復習）
- 10回 New Headway Episode 3 位置の表現
- 11回 " 道案内
- 12回 " 買物
- 13回 Episode 3 を使ったrole playなどでreview（復習）
- 14回 総復習
- 15回 筆記試験

科目名	英語基礎 I D	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	片野田 浩子	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

音楽やショートストーリーのDVDをインプット教材として使い音読や英語の歌を歌う事でリズム・発音練習をします。力試しにTOEICの問題にも取り組みます。皆で英語を楽しむ事をクラス目標としたいと思います。

●履修上の条件及び履修の方法

出席を重視します。興味を持って楽しく参加してください。

●試験方法及び成績評価方法

評価 出席25% 平常点25% 課題50%

●テキスト（必携）

書籍名：『TOEICテスト：Part1/Part2 リスニング対策』
 著者名：片野田浩子 出版社：朝日出版社
 備考：ISBN 4-255-15349-3 ¥1200+税

●授業内容

1. 授業の目標、流れ、評価についての説明
2. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その1-1
3. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その1-2
4. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その1-3
5. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その1-4
6. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その1-5
7. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その1-6
8. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その1-7
9. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その1-8
10. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 C1~C2
11. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 C3~C4
12. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 C5~C6
13. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 C7~C8
14. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 C9~C10
15. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 C11~C12

科目名	英語基礎Ⅱ A,B,C	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	溝口 良子	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

意思伝達的手段として、読み、書き、聞き、話せる、総合的な基礎の習得および英語圏の文化への理解、その地域での自己表現の仕方などの習得を目指します。特に海外に一人旅ができる会話力の習得に力を入れます。また、メールの書き方や、TOEICを使ったリスニング、多読も取り入れ、4技能のバランスを図ります。

●履修上の条件及び履修の方法

積極的に授業に参加し、ロールプレイや英語を使ったアクティビティにも挑む姿勢が求められます。また多読用小冊子を読んだブックレポートの提出も必要です。

●試験方法及び成績評価方法

出席状況、ブックレポートの数、積極的な態度や参加度、および筆記試験の成績等で総合評価します。遅刻、私語、居眠、教科書不携帯などは減点対象とします。

●テキスト（必携）

書籍名：New Headway (Beginner) 著者名：John Murphy
 出版社：Oxford university press
 備考：ISBN 0-19-458178-0

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 New Headway Episode 4 星座について
- 3回 " 性格、仕事など
- 4回 " 1日の行動（過去形）
- 5回 review Episode 4を使つてのrole playなど
- 6回 New Headway Episode 5 約束のしかた
- 7回 " レストランでの会話
- 8回 " ファーストフードレストランでの会話
- 9回 review Episode 5を使つてのrole playなど
- 10回 New Headway Episode 6 人の長を表わす
- 11回 " 電話の会話
- 12回 " 未来について
- 5回 review Episode 6を使つてのrole playなど
- 14回 総復習
- 15回 筆記試験

科目名	英語基礎Ⅱ D	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	片野田 浩子	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

英語基礎Iと同様、音楽やショートストーリーのDVDをインプット教材として使い、音読や英語の歌を歌う事でリズム・発音練習をします。力試しにTOEICの問題にも取り組みます。皆で英語を楽しむ事をクラス目標としたいと思います。

●履修上の条件及び履修の方法

出席を重視します。興味を持って楽しく参加してください。

●試験方法及び成績評価方法

評価 出席25% 平常点25% 課題50%

●テキスト（必携）

書籍名：Kメソッドによる5分間トピックテストリスニング
 著者名：片野田浩子 出版社：南雲堂
 備考：ISBN 4-523-17442-3 ¥700+税

●授業内容

- 1. 授業の目標、流れ、評価についての説明
- 2. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その2-1
- 3. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その2-2
- 4. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その2-3
- 5. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その2-4
- 6. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その2-5
- 7. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その2-6
- 8. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その2-7
- 9. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その2-8
- 10. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 C1~C2
- 11. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 C3~C4
- 12. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 C5~C6
- 13. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 C7~C8
- 14. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 C9~C10
- 15. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 C11~C12

科目名	英語中級Ⅰ	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	片野田 浩子	単位	1	年次	2～

●授業科目の目標

英語基礎Ⅰ、Ⅱで養った力を確かなものとするため、少し難度をあげつつ取り組んでいきます。英語基礎と同様にタスクベースとし、モチベーションが保たれるように進めていきたいと思ひます。皆で英語を楽しむ事をクラス目標としたいと思ひます。

●履修上の条件及び履修の方法

出席を重視します。興味を持って楽しく参加してください。

●試験方法及び成績評価方法

評価 出席25% 平常点25% 課題50%

●テキスト（必携）

書籍名：Kメソッズによる5分間新トピックテストリスニング450
 著者名：片野田浩子 出版社：南雲堂

●授業内容

1. 授業の目標、流れ、評価についての説明
2. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その3-1
3. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その3-2
4. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その3-3
5. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その3-4
6. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その3-5
7. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その3-6
8. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その3-7
9. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その3-8
10. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 u1～u2
11. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 u3～u4
12. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 u5～u6
13. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 u7～u8
14. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 u9～u10
15. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 u11～u12

科目名	英語中級Ⅱ	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	片野田 浩子	単位	1	年次	2～

●授業科目の目標

英語中級Ⅰと同様に英語基礎Ⅰ、Ⅱで養った力を確かなものとするため、少し難度をあげつつ取り組んでいきます。タスクベースとし、モチベーションが保たれるように進めていきたいと思ひます。皆で英語を楽しむ事をクラス目標としたいと思ひます。

●履修上の条件及び履修の方法

出席を重視します。興味を持って楽しく参加してください。

●試験方法及び成績評価方法

評価 出席25% 平常点25% 課題50%

●テキスト（必携）

書籍名：Kメソッズによる5分間新トピックテストリスニング550
 著者名：片野田浩子 出版社：南雲堂

●授業内容

1. 授業の目標、流れ、評価についての説明
2. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その4-1
3. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その4-2
4. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その4-3
5. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、音読練習 その4-4
6. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その4-5
7. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その4-6
8. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その4-7
9. 英語のインプット(DVD)、リズム・発音練習、読解練習 その4-8
10. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 u1～u2
11. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 u3～u4
12. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 u5～u6
13. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 u7～u8
14. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 u9～u10
15. 英語のインプット(DVD)、シャドーイング、トピック問題によるリスニング練習 u11～u12

科目名	映像音楽制作演習Ⅰ	形態	演習	開講期	春
担当教員	田頭 勉	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

映像音楽を制作するのに必要な基礎的知識を習得することを目標とする。

●履修上の条件及び履修の方法

各回ごとに学生にもその題材を提案させ発表をしていただきます。

●試験方法及び成績評価方法

授業内での発表内容を評価します。試験は行いません。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 映像音楽の歴史1
- 3回 映像音楽の歴史2
- 4回 映像音楽の歴史3
- 5回 映像音楽の特殊性1
- 6回 映像音楽の特殊性2
- 7回 映像音楽の特殊性3
- 8回 アタック、ブリッジについて1
- 9回 アタック、ブリッジについて2
- 10回 アタック、ブリッジについて3
- 11回 アタック、ブリッジについて4
- 12回 テレビドラマの音楽について1
- 13回 テレビドラマの音楽について2
- 14回 テレビドラマの音楽について3
- 15回 テレビドラマの音楽について4

科目名	映像音楽制作演習Ⅱ	形態	演習	開講期	秋
担当教員	田頭 勉	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

映像音楽を制作するのに必要な基礎的知識を習得することを目標とする。

●履修上の条件及び履修の方法

各回ごとに学生にもその題材を提案させ発表をしていただきます。

●試験方法及び成績評価方法

授業内での発表内容を評価します。試験は行いません。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 ラジオドラマの音楽について1
- 3回 ラジオドラマの音楽について2
- 4回 ラジオドラマの音楽について3
- 5回 ラジオドラマの音楽について4
- 6回 CM音楽について1
- 7回 CM音楽について2
- 8回 CM音楽について3
- 9回 CM音楽について4
- 10回 映画音楽について1
- 11回 映画音楽について2
- 12回 映画音楽について3
- 13回 映画音楽について4
- 14回 映像音楽全般の基礎総括1
- 15回 映像音楽全般の基礎総括2

科目名	エコロジー入門	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	黒田 慧慶	単位	2	年次	1～

●授業科目の目標

現在世界中で発生している「不都合な真実」を直視し、どうしたら元の地球にもどすことができるかを考え、できることから実行する。

昨年度、名古屋では35℃以上の高温が数週間にわたり続き、先年、多治見では観測史上最高の40.9℃を記録した。またアメリカ南部では、ハリケーンが例年に比べ3倍多く、威力は増大し、特にハリケーン「カトリーナ」によりジャズで有名なニューオーリンズは海の町と化した。これらは地球の気象に変化が現れ始めた1例であると思う。CO₂ガス等温暖化ガスを規制無く排出すれば百年後には気温が4℃上り、海面は1m上昇し、モルジブ始め南太平洋の数ヶ国が海中に沈み、世界中で1億人の住家が危ぶまれる。又、温暖化により乾燥化が進み農作物の減少は著しく、大量の餓死者の発生が懸念される。そのため京都に百カ国以上集まり、地球温暖化防止会議が開催された。その結果2008年から2012年までに温暖化ガスの排出量を1990年を基準にしてEU 8%、米国7%、日本6%削減することが法的規制をもって決議されたが、米国のみ現時点では批准していない。この削減率を達成するため炭素税を導入したり、CO₂排出権、CO₂の売買が各国間で行われている。

化石燃料を大量に消費することによる温暖化の他に、永年にわたりゴミ等不要物を大気中、海水中に無制限に放棄し続けたついでに、ダイオキシン汚染、環境ホルモン汚染となり、紙面を賑わせている。特に環境ホルモンによりメスのオス化が魚介類に多く見られる。人類にもこれらの影響が現れるのは時間の問題であると思う。以上のことをふまえ、緑の地球を子々孫々に残すために、私達が今日からできることを共に考え、実行していくことを本講義の目的とする。

●履修上の条件及び履修の方法

特に言及すべきことはないが、講義中の私語は慎むこと。

●授業内容

1. ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認
2. 地球46億年目の危機
3. 地球の温暖化は防げるか
4. オゾン層破壊による影響
5. 環境にやさしい生活術
6. ゴミリサイクルの問題
7. のびのびするダイオキシン汚染
8. UVケア
9. CO₂ガス大幅削減法
10. ゴキブリの生態と環境汚染のない捕獲法
11. ES細胞（胚性幹細胞）とiPS細胞（人工多能性幹細胞）
12. CO₂の排出権及びCO₂の売買
13. 環境ホルモン汚染
14. エネルギーを使わない納涼法
15. 試験

●試験方法及び成績評価方法

筆記試験、出席率、試験の成績及び受講態度。

●テキスト（必携）

科目名	エネルギーと自然環境	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	黒田 慧慶	単位	2	年次	3

●授業科目の目標

この演習は「エネルギーと自然環境」をテーマに行なう。世界中の国々が直面する多種多様な諸問題の分析・検討、並びにそれらの課題について生徒を指導するための方法と技術を身につけることを目標にする。

●履修上の条件及び履修の方法

教員免許取得を希望する者は、総合演習8科目のうちいずれか一つを履修しなければならないが、本科目はその一つである。討論を主体とした演習科目であるので、人数制限を行なう。テーマについては、学期の最初の授業で参加者の意見を聞きながら、調整する。一人一回は発表を行うことになるので、自分なりに取り組みたいテーマを考えておくこと。毎回必ず出席し、授業に主体的に参加すること。

●試験方法及び成績評価方法

試験は行なわない。成績評価は自分が決めたテーマのレポートと出席状況と演習への取り組み姿勢を考慮して行なう。

●テキスト（必携）

●授業内容

具体的なテーマとしては現在最も広く用いられている石油・石炭などの化石エネルギーをめぐる地球温暖化等の諸問題、日本のような地下資源の少ない国が使用せざるを得ない原子力発電をめぐる放射能汚染等の諸問題、地球にやさしいエネルギーとして実用視されている太陽光発電を初めとする風力発電、地熱・潮力発電をめぐる諸問題を取りあげる。炭酸ガスを放出しない夢の無公害車エネルギーとして実現可能性のある燃料電池についても言及する。

この演習を通して、現代世界のかかえる諸問題についての理解を深めるとともに、それらの諸問題について分析し検討することのできる思考習慣と、さらには、それら諸問題の解決の糸口を探るための方法と技術を身につけるようにしてほしい。この演習の目的と進め方（班分け）

1. ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認
2. テーマ概説(1)「化石エネルギー」
3. テーマ概説(2)「地球にやさしいエネルギー」
4. テーマ概説(3)「風力発電、地熱・潮力発電」
5. テーマ概説(4)「太陽光発電」「原子力発電」
6. テーマ概説(5)「燃料電池」「バイオ燃料」
7. 発表：テーマ「化石エネルギー」
8. 発表：テーマ「地球温暖化」
9. 発表：テーマ「節電・節水」
10. 発表：テーマ「原子力発電」
11. 発表：テーマ「太陽光発電の応用と実用性」
12. 発表：テーマ「風力発電」
13. 発表：テーマ「燃料電池」
14. 学級での指導法1
15. 学級での指導法2

科目名	演技・演出実習Ⅰ～Ⅳ	形態	実習	開講期	春・秋
担当教員	はせ ひろいち	単位	1	年次	1,2,3

●授業科目の目標

現代演劇を語る上で軽視できない「会話劇のシステム」を、実践的に経験する。複雑に絡み合っている「セリフ」「カラダ」「イシキ」を、コントロールする技術の習得を目指し、演劇の持つ独特なリアリティーの表現を試みる。また同時に、現代社会が直面しているコミュニケーションの問題を含めた、現代演劇の新しい可能性を考える。

●履修上の条件及び履修の方法

- ・動きやすい服装、靴で参加する。
- ・欠席、遅刻は事前に連絡すること。
- ・「新しい自分に出会う」気持ちで積極的に題材に参加しよう。

●試験方法及び成績評価方法

平常の出席状況、授業態度、各種エチュードの理解度、学期末の発表会成果などを元に総合的に評価する。

●テキスト（必携）

特になし。台本などは必要に応じて授業時に配布します。

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 ミニゲームを通じ会話劇の基本要素を体験する。
- 3回 //
- 4回 //
- 5回 エチュード用の台本を使って会話を体験する①。
- 6回 エチュード用の台本を使って会話を体験する②。
- 7回 発表会用の短編台本を提示、初読み。解釈、ポイント整理。
- 8回 キャスティング発表、読み稽古。
- 9回 立ち稽古①
- 10回 立ち稽古②
- 11回 立ち稽古③
- 12回 通し稽古①
- 13回 通し稽古②
- 14回 発表会。
- 15回 発表会の講評、振り返り。まとめの授業。

科目名	演技・演出実習Ⅴ～Ⅷ	形態	実習	開講期	春・秋
担当教員	はせ ひろいち	単位	1	年次	3,4

●授業科目の目標

現代口語演劇における会話研究を深め、演劇ならではのリアリティーある表現を習得する。当事者性、客観性を探り、自分らしさをいかに関係性の芝居に転化していくか、そのプロセスを経験する。また「相手のセリフをいかに新鮮に聞かか」など、他者との基本コミュニケーションを正視することで、より豊かな演劇の謎と魅力にアプローチする。

●履修上の条件及び履修の方法

- ・動きやすい服装、靴で参加する。
- ・欠席、遅刻は事前に連絡すること。
- ・「新しい自分に出会う」気持ちで積極的に題材に参加しよう。

●試験方法及び成績評価方法

平常の出席状況、授業態度、各種エチュードの理解度、学期末の発表会成果などを元に総合的に評価する。

●テキスト（必携）

特になし。台本などは必要に応じて授業時に配布します。

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 「セリフ」「イシキ」「カラダ」の確認と分化。
- 3回 ミニエチュードを通じて「関係性の演劇」を体験する。
- 4回 //
- 5回 //
- 6回 詩の朗読、ドラマリーディングの経験。
- 7回 発表会用の短編台本を提示、初読み。解釈、ポイント整理。
- 8回 キャスティング発表、読み稽古。
- 9回 立ち稽古①
- 10回 立ち稽古②
- 11回 立ち稽古③
- 12回 通し稽古①
- 13回 通し稽古②
- 14回 発表会。
- 15回 発表会の講評、振り返り。まとめの授業。

科目名	オーケストラⅠ～Ⅷ	形態	実習	開講期	春・秋
担当教員	後藤 龍伸	単位	1	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

授業を通して演奏技術を高め、同時に他人の音を聴きながら合奏することの大切さを学び、音楽の楽しさや作曲家の描いた緻密な世界を表現する面白さを、共有できるようにつとめる。学習内容は、卒業後プロの演奏家や指導者としても活動できるようにするための、社会参加や音楽現場に即したものを旨とする。

●履修上の条件及び履修の方法

アンサンブル能力を高めよう、という自覚をもつてのぞんでください。できるだけ遅刻・欠席の無いようこころがけること。課題曲はかならず予習すること。

●試験方法及び成績評価方法

適切に学習していると判断できる場合はA評価、そうでない場合はB評価、いちじるしく授業を妨害した場合はC・D評価もあり得る。

●テキスト（必携）

●授業内容

- (春・秋)
- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
 - 2回 それぞれの楽器の特性（音域など）に関する知識を深める。調律（ピッチ）について研究する。
 - 3回 楽譜の読み方をきわめる（スコアリーディングを含む）。書き込みの仕方を習得する。
 - 4回 フレージング（旋律の歌い方、起伏の作り方）を研究する。
 - 5回 正しいリズムを習得する。
 - 6回 作品にふさわしいテンポを設定する。
 - 7回 調性およびハーモニー（和声）を研究する。音程を作る。
 - 8回 フレージングとハーモニーの組み合わせによる、旋律の流れとカデンツを感じ取る。
 - 9回 作品の形式（ソナタ形式など）を把握する。
 - 10回 作曲者についての知識をふやす。
 - 11回 作品の成立について研究する。
 - 12回 作品が生まれた時の時代背景をさぐる。
 - 13回 作品の他の分野との関連性（文学・美術など）について探求する。
 - 14回 演奏中に生じる困難なパッセージを克服する。
 - 15回 全体の流れをつかむ。

科目名	オペラ基礎演習Ⅰ	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	たかべしげこ・小川典子・西川まさ子・野々村明子・西川文紀	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

オペラは歌手にとって1. 歌唱とセリフ 2. 身体表現（舞踊、演技）である。この授業ではまず舞踊と演劇の授業を集中して行う。この授業を通して身体表現を学び、オペラ学習に役立てたい。

●履修上の条件及び履修の方法

服装や持ち物については事前に連絡有り。掲示や連絡網に注意すること。授業開始時には着替えを完了していること。

●試験方法及び成績評価方法

出席と平常点によるが、担当者が変わるので、出席がかなり重要視される。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 バレエ
- ↓
- 4回
- 5回 着物着付け稽古*
- 6回 日本舞踊
- ↓
- 8回
- 9回 コンテンポラリー
- ↓
- 12回
- 13回 演技
- ↓
- 15回

(各内容で担当者が変わるため、変更の時もあり。)

*5回目の“着物着付け稽古”の成果を6回目以降の“日本舞踊”の授業に反映すること。授業開始前に着付けが終了していること。

科目名	オペラ基礎演習Ⅱ	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	山本 みよ子	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

「オペラ基礎演習Ⅰ」で経験した演技・舞踊の基礎の上に、歌うという行為を加えて、オペラという舞台表現を体験する。

●履修上の条件及び履修の方法

- 1、無断欠席、遅刻厳禁
- 2、譜読みを完全に終了して臨むこと。
- 3、全曲の台本を読み、ストーリーを把握しておくこと。
- 4、練習に相応しい服装で臨むこと。

●試験方法及び成績評価方法

出席・平常点・試演会の評価による。

●テキスト（必携）

●授業内容

- モーツァルト作曲、オペラ「魔笛」「フィガロの結婚」よりアンサンブルを中心としたオペラ研究をする。
- 1回 授業ガイダンス、舞台人の稽古マナーについて、キャストイング
 - 2回 音楽稽古
 - ↓
 - 5回
 - 6回 暗譜により音楽稽古
 - 7回 立ち稽古
 - ↓
 - 14回
 - 15回 試演会

科目名	オペラ実習Ⅰ	形態	実習	開講期	春学期
担当教員	山本 みよ子	単位	1	年次	3

●授業科目の目標

オペラ表現を支える「声」「言葉」「解釈」に主眼をおいた動きを習得する。

- ・“語るように歌い演じる”を目指す。
- ・役柄を追究し、人物描写の表現を深める。

●履修上の条件及び履修の方法

- 1、無断欠席、遅刻厳禁。
- 2、譜読みを完全に終了しておく事。
- 3、全曲の台本を必ず読み、ストーリーを把握しておく事。
- 4、練習に相応しい服装で臨む事。

●試験方法及び成績評価方法

出席状況と試演会の評価。

●テキスト（必携）

●授業内容

- ビゼー作曲、オペラ「カルメン」よりアンサンブルを中心としたオペラ研究をする。
- 1回 授業ガイダンス、キャストイング
 - 2回 音楽稽古
 - ↓
 - 5回
 - 6回 暗譜による音楽稽古
 - 7回 立ち稽古
 - ↓
 - 14回
 - 15回 試演会

科目名	オペラ実習Ⅱ	形態	実習	開講期	秋学期
担当教員	山本 みよ子	単位	1	年次	3

●授業科目の目標

オペラ表現を支える「声」「言葉」「解釈」に主眼をおいた動きを習得する。
 ・“語るように歌い演じる”を目指す。
 ・役柄を追究し、人物描写の表現を深める。

●履修上の条件及び履修の方法

- 1、無断欠席、遅刻厳禁
- 2、譜読みを完全に終了しておく事。
- 3、全曲の台本を必ず読み、ストーリーを把握しておく事。
- 4、練習に相応しい服装で臨む事。

●試験方法及び成績評価方法

出席状況と試演会の評価。

●テキスト（必携）

●授業内容

ブッチーニ作曲、オペラ「蝶々夫人」よりアンサンブルを中心にしたオペラ研究をする。
 1回 授業ガイダンス、キャスティング
 2回 音楽稽古
 ↓
 5回
 6回 暗譜による音楽稽古
 7回 立ち稽古
 ↓
 14回
 15回 試演会

科目名	オペラ実習Ⅲ・Ⅳ	形態	実習	開講期	春・秋
担当教員	松下 雅人	単位	1	年次	4

●授業科目の目標

オペラ作品を演じるための歌唱法・演技法を追究し、作品に対する理解を深める。加えて舞台人としての姿勢を身につける。そして本番までのプロセスを経験することで、総合芸術としてのオペラをあらゆる角度から理解する。

●履修上の条件及び履修の方法

予習を完全に熟すこと。特に立ち稽古開始時の暗譜を守ること。音出し開始等の稽古時間を確実に守ること。

●試験方法及び成績評価方法

授業時の研究態度、オペラ公演の研究発表による。

●テキスト（必携）

●授業内容

(春学期)
 1回 音楽稽古、セリフ稽古、作品研究
 2回 音楽稽古、セリフ稽古、作品研究
 3回 オーディションによる役柄決定
 4回 音楽稽古、セリフ稽古、作品研究
 ↓
 10回
 11回 立ち稽古
 ↓
 13回
 (秋学期)
 1回 立ち稽古
 ↓
 7回
 8回 幕ごとの通し稽古
 9回 幕ごとの通し稽古
 10回 通し稽古 (Aチーム)
 12回 通し稽古 (Bチーム)
 13回 通し稽古 (ゲネプロ)
 14回 通し稽古 (ゲネプロ)
 15回 本番 (成徳館12Fホールにて、Aチーム、Bチーム)

科目名	オペラと歌曲の歴史	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	佐々木 勉	単位	2	年次	3

●授業科目の目標

ヨーロッパ音楽、特にオペラと歌曲の歴史について理解し、正確な知識を身につけるを目標とします。また、オペラと歌曲の歴史を理解することを通じて、音楽のみならずヨーロッパの文化全体を広い視野から考え、さらに得られた知識を演奏や教育に役立てることができるようにしたいと考えます。

●履修上の条件及び履修の方法

西洋音楽史を、音楽を知らずに理解することはできません。授業時間は限られており、音楽史における重要な作品を授業においてすべて観たり、聴いたりすることはできません。授業に出てきた作品については、図書館などを利用して積極的に鑑賞するようにして下さい。

●試験方法及び成績評価方法

授業時間内に実施するテストとレポートの成績に、出席状況や受講態度などを加味して評価を行います。

●テキスト（必携）

プリントを配布。

●授業内容

1. ガイダンス：オペラと歌曲の歴史を学ぶ目的と学び方について（シラバスの確認）
西洋音楽史における声楽曲の位置について
2. 中世の声楽曲について
3. ルネサンス期の声楽曲について
4. オペラの成立とその背景：モノディ様式の誕生
5. 初期オペラの展開とモンテヴェルディ
6. ナポリ楽派のオペラの展開：オペラ・ブッフアとオペラ・セリア
7. オペラにおける国民様式の確立
8. グルックのオペラ改革
9. リートの発展
10. ロマン主義オペラの確立
11. ワグナーと楽劇その1
12. ワグナーと楽劇その2
13. ロマン主義オペラへの反動：ヴェリズモ・オペラ
14. 日本歌曲の歴史と展開
15. 20世紀のオペラと歌曲

科目名	音楽科学	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	大谷 安宏	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

「音」や「音楽」の世界を科学的な視点で捉え、基礎知識を身につける。科学的な知識を根幹とする音楽表現について関心を持つことができるようにする。
音楽科学の知識を、演奏や作品制作に役立てることができるようにする。

●履修上の条件及び履修の方法

授業で紹介した用語や用法については、積極的に調べるようにすること。

●試験方法及び成績評価方法

授業時間内に実施する筆記試験（2回）の成績に出席状況や受講態度を加味して評価をおこないます。

●テキスト（必携）

●授業内容

1. ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
音とはなにか
2. 音を聴くこと
3. デジタルデータ
4. アナログデータ
5. 録音と再生1 マイクロフォンとスピーカ
6. 録音と再生2 アンプリファイア
7. 楽器の音響特性 1
8. " 2
9. 音響効果 1
10. " 2
11. シンセサイザ 1
12. " 2
13. 音楽構造 1
14. " 2
15. コンピュータ・ミュージックの現在

科目名	音楽科教育法ⅠA～C	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	柴田 篤志	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

中学校・高等学校で音楽の先生として授業を運営するための力をつけます。当座の目標は、教育実習で立ち往生しない程度の「状況対応力」を身につけることです。

●履修上の条件及び履修の方法

教員免許を取ることを目的とするのではなく、実際に教員になろうと真剣に志していることが履修条件です。極めて実践的な授業運営をしますので、汗と涙を流すことを厭うのであれば履修しないことを勧めます。
講義冒頭の四回でこの講義をどのように受講すると単位が取れるかについて詳説します。このシラバスだけでは説明できませんので、特に最初の四回の講義は必ず出席して下さい。
また、年間通して使用する重要な資料もこの四回でほとんど配布します。追加で発行はしませんので、必ず入手して下さい。なお、教科書は必携です。新学期の教科書販売の時期に購入しないと、書店では購入できません。計八冊は必ず入手して下さい。

●試験方法及び成績評価方法

授業には「システム」というルールブックが存在します。それに基づいて成績評価します。成績評価の基準は大変に厳しいです。出席を重視します。原則として皆勤を要求します。もちろん無遅刻であること。
ただし、皆勤して座っているだけでは単位はできません。授業に「どのように」参加したかを観点別に評価することで、一回の講義ごとに加点・減点がなされます。出席を満たしたことによってあたえられる“基本点”に、この加点・減点をあわせて単位が認定されます。基本点だけでは単位になりません。ですからテストやレポートは行いません。一回一回の授業がそのまま試験だと思って下さい。

●テキスト（必携）

- 《No.1.》書籍名：中学生の音楽1、出版社：教育芸術社
- 《No.2.》書籍名：中学生の音楽2・3上、出版社：教育芸術社
- 《No.3.》書籍名：中学生の音楽2・3下、出版社：教育芸術社
- 《No.4.》書籍名：中学生の器楽、出版社：教育芸術社
- 《No.5.》書籍名：中学音楽1 音楽のおくりもの、出版社：教育出版

●授業内容

1. オリエンテーション
2. 学習指導要領概説
3. 授業システム説明、模擬授業担当希望調査
4. 学習指導案作成法について
5. 模擬授業
6. 模擬授業
7. 模擬授業
8. 模擬授業
9. 模擬授業
10. 模擬授業
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業

科目名	音楽科教育法ⅡA～C	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	柴田 篤志	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

中学校・高等学校で音楽の先生として授業を運営するための力をつけます。当座の目標は、教育実習で立ち往生しない程度の「状況対応力」を身につけることです。教育法のⅠにおいて授業運営のノウハウの基礎が身につけていることを前提としますので、徹底的に実践に基づいた授業になります。自らをプレゼンテーションする力を磨きます。

●履修上の条件及び履修の方法

教員免許を取ることを目的とするのではなく、実際に教員になろうと真剣に志していることが履修条件です。極めて実践的な授業運営をしますので、汗と涙を流すことを厭うのであれば履修しないことを勧めます。
前期の教育法Ⅰで、この講義をどのように受講すると単位が取れるかについて詳説済みです。
教育法Ⅰを履修、単位取得していない場合は履修できません。なお、教科書は必携です。新学期の教科書販売の時期に購入していないと、書店では購入できません。計八冊を入手していることも履修の条件になります。

●試験方法及び成績評価方法

授業には「システム」というルールブックが存在します。それに基づいて成績評価します。成績評価の基準は大変に厳しいです。出席を重視します。原則として皆勤を要求します。もちろん無遅刻であること。
ただし、皆勤して座っているだけでは単位はできません。授業に「どのように」参加したかを観点別に評価することで、一回の講義ごとに加点・減点がなされます。出席を満たしたことによってあたえられる“基本点”に、この加点・減点を合算して単位が認定されます。基本点だけでは単位になりません。ですからテストやレポートは行いません。一回一回の授業がそのまま試験だと思って下さい。

●テキスト（必携）

- 《No.1.》書籍名：中学生の音楽1、出版社：教育芸術社
- 《No.2.》書籍名：中学生の音楽2・3上、出版社：教育芸術社
- 《No.3.》書籍名：中学生の音楽2・3下、出版社：教育芸術社
- 《No.4.》書籍名：中学生の器楽、出版社：教育芸術社
- 《No.5.》書籍名：中学音楽1 音楽のおくりもの、出版社：教育出版

●授業内容

1. 模擬授業
2. 模擬授業
3. 模擬授業
4. 模擬授業
5. 模擬授業
6. 模擬授業
7. 模擬授業
8. 模擬授業
9. 模擬授業
10. 模擬授業
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業

科目名	音楽科教育法Ⅲ	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	柴田 篤志	単位	2	年次	3

●授業科目の目標

教授の内容（教材）への知識、理解を深めること目指します。教育法Ⅰ、Ⅱにおいて「状況判断」「迅速な対応」への基礎訓練が済んでいるという前提で、定番の教授法をマニュアルとして自ら編めることを理想とします。

●履修上の条件及び履修の方法

音楽科教育法Ⅰ、Ⅱの単位を取得していること。高校教科書については、こちらでも用意しますがもし可能ならば各自用意できることが望ましいです（音楽之友社、教育出版社、教育芸術社のものであれば何でもよろしい）。

●試験方法及び成績評価方法

履修人数により変わる可能性はありますが、原則一つの課題に全員が関わるように授業を運営しますので、一時間ごとに評定します。全授業分の評定を基本点に合算して成績判定の材料とします。いわゆる平常点ですが、欠席すると0点と同じだと考えて下さい。レポート、テストなどは行いません。

●テキスト（必携）

●授業内容

1. 中学校、歌唱指導（一年①）
2. 中学校、歌唱指導（一年②）
3. 中学校、歌唱指導（一年③）
4. 中学校、歌唱指導（二年）
5. 中学校、歌唱指導（三年）
6. 中学校、器楽指導
7. 中学校、鑑賞指導①
8. 中学校、鑑賞指導②
9. 日本の音楽における指導
10. 諸民族の音楽に関する指導
11. 高等学校音楽Ⅰの指導①
12. 高等学校音楽Ⅰの指導②
13. 高等学校音楽Ⅱ、Ⅲの指導
14. 実際の教授例について（VTR）
15. 実際の教授例について（学習指導案）

科目名	音楽科教育法Ⅳ	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	柴田 篤志	単位	2	年次	3

●授業科目の目標

中学校音楽科においてメインコンテンツとして在り続ける“合唱”に関する指導上のノウハウを身につけます。特に“クラス合唱”の定番曲を完全にレパートリーとすることを目指します。

●履修上の条件及び履修の方法

教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの単位を取得していること。

●試験方法及び成績評価方法

履修人数にもよりますが、一つの課題を全員でことを理想とします。曲によっては事前に小節数で分担することもあります。原則として一曲すべてを指導できることが望ましいです。一年間で十五曲を扱う、というのはあくまでも目標で、曲数は増えたり減ったりする可能性があります。また、講義計画にあげた曲は昨年度実績ですので、曲の入れ替えはあり得ると考えて下さい。歌唱指導の際に配慮すべき事項の数々は教育法Ⅰ～Ⅲにおいて身につけているという前提で授業を行います。一時間ごとの教授について評定値にして、その合計を基本点に合算して成績評価の材料とします。いわゆる平常点ですが、欠席すると0点と同じだと考えて下さい。レポート、テストなどは行いません。

●テキスト（必携）

●授業内容

1. 夢の世界を
2. マイ バラード
3. let's search for tomorrow
4. 怪獣のバラード
5. 君をのせて
6. with you smile
7. 心の瞳
8. 時の旅人
9. 名付けられた葉
10. 走る川
11. 友よ北の空へ
12. 春に
13. 聞こえる
14. 青葉の歌
15. 海の不思議

科目名	音楽学演習	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	佐々木 勉	単位	1	年次	3

●授業科目の目標

この演習では、4年次で履修する卒業論文あるいは卒業研究のために研究課題を設定し、それについて理解を深めることを目的とします。そして課題や方法を具体化し、明確化し、自らの研究に向けて独自の視点をもてるようにします。

●履修上の条件及び履修の方法

演習ということをお忘れずに積極的に課題に取り組んで下さい。

●試験方法及び成績評価方法

受講者各自の発表の内容や課題に取り組む姿勢などに基づいて成績評価します。

●テキスト（必携）

●授業内容

演習ですので、各受講者の発表や報告、また受講者間の討論で授業は構成されます。

- 第1回 ガイダンス：音楽学演習の目的と学び方、授業の進め方について
- 第2回 卒業論文のテーマの設定について
- 第3回 受講生による発表と討論
- ↓
- 第15回 まとめ

科目名	音楽学の課題 A	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	西崎 専一	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

音楽学は、音楽にまつわるさまざまな現象について考えたり調査したりすることによって音楽に対する理解を深めることを目標としています。この講義Aは、なかでも音楽と人間の意識精神、環境や社会などとの関わりに関心を持つ学生に向けて開かれています。「モーツァルトのメロディはどのようにして音階を上がったか下がり下がりばかりしているのだろうか」とか「悲しい時にゆったりとした音楽を聴くと心が和んでくるのはどうしてだろうか」といったことを考えてみたことはありませんか。こんな時に、わたしたちは「音楽学」のなかにいるのです。音楽学の課題Aでは、音楽学を通して音楽にアプローチする道筋について、様々な角度から考えていきます。

●履修上の条件及び履修の方法

できるだけ問題を具体的にとらえた親しみやすい講義を進めていきたいと思っています。皆さんも講義の中からひとつでも多くの興味を持てるポイントをつかんで、将来の研究へ向けてのよいスタートとなるよう努めてください。

●試験方法及び成績評価方法

試験はレポート提出、評価はレポートや受講姿勢などを総合的に判断して行う。平常の受講状況、発表・提出物等の内容により総合的に判断する。

●テキスト（必携）

●授業内容

1. 講義をはじめににあたって
 2. 「音楽」って何だろう(1)
 3. 「音楽」って何だろう(2)
 4. 人間はどのように「音楽」をしてきたのか～ヨーロッパでは(1)
 5. 人間はどのように「音楽」をしてきたのか～ヨーロッパでは(2)
 6. 人間はどのように「音楽」をしてきたのか～アジアでは(1)
 7. 人間はどのように「音楽」をしてきたのか～アジアでは(2)
 8. 人間はどのように「音楽」をしてきたのか～日本では
 9. 音楽と生活のつながり(1) 祈ることを通して
 10. 音楽と生活のつながり(2) 働くことを通して
 11. 音楽と生活のつながり(3) 遊ぶことを通して
 12. 音環境とわたしたちの生活
 13. 音環境のなかの音楽
 14. ～15.
- 民族音楽や現代音楽のあり方の受容によって、古典的な西洋音楽中心の音楽観を克服する方向性を探る。

科目名	音楽学の課題 B	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	佐々木 勉	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

「音楽学musicology」とは、どのような学問なのでしょう。どのような研究史や研究分野をもつのでしょうか。また何を目的としているのでしょうか。このクラスでは、音楽学の性格、研究史、最新の研究分野、課題などを紹介しながら、特に音楽学の歴史的分野（音楽史学）を中心に、その課題と展開の可能性を考え、音楽学研究の基礎を身につけたいと考えます。

●履修上の条件及び履修の方法

4年次に履修する卒業論文や卒業研究を念頭において、目的意識をもって授業に参加して下さい。

●試験方法及び成績評価方法

レポートの他、出席状況及び学習の状況をもとに総合的に評価します。

●テキスト（必携）

●授業内容

第1回から第15回までの授業の内容は下記の通りです。

- 第1回 ガイダンス：音楽学を学ぶ目的と学び方について（シラバスの確認）
音楽学とは？
- 第2回 名古屋音楽大学における音楽学研究とカリキュラム
- 第3回 音楽学の研究史
- 第4回 音楽学の研究分野
- 第5回 音楽史学の課題と方法
- 第6回 研究と資料：一次資料と二次資料、楽譜資料など
- 第7回 研究と図書館
- 第8回 レファレンス・ブック（参考図書）
- 第9回 パソコンを利用した資料情報探索
- 第10回 インターネットを利用した音楽情報資料探索
- 第11回 レポートと論文の書き方
- 第12回 楽譜の「エディション」についてその1
- 第13回 楽譜の「エディション」についてその2
- 第14回 楽譜の「エディション」についてその3
- 第15回 研究テーマの設定について

科目名	音楽学の方法 A	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	西崎 専一	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

この講義では、春学期の音楽学の課題Aを受けて、そこで示された音楽の姿について、具体的に考えたり調査したりする方法、特にフィールドワークの方法を中心に学びます。

●履修上の条件及び履修の方法

できるだけ問題を具体的にとらえた親しみやすい講義を進めていきたいと思っています。皆さんも講義の中からひとつでも多くの興味を持てるポイントをつかんで、将来の研究へ向けてのよいスタートとなるよう努めてください。

●試験方法及び成績評価方法

試験はレポート提出、評価はレポートや受講姿勢などを総合的に判断して行う。

●テキスト（必携）

●授業内容

この講義では、春学期の音楽学の課題Aを受けて、そこで示された音楽の姿について、具体的に考えたり調査したりする方法、特にフィールドワークの方法を中心に学びます。まず、「作曲」「演奏」「鑑賞」といった、私達が直接的に音楽的であると考えている現象のとらえ方について考えます。また、音楽はそのほかの様々な表現とも結びつきますが、例えば音楽と詩とが結びついて、「歌」が生まれる、その仕組みの理解の仕方について学びます。そして、音楽学が明らかにすべき課題と方法との関係や、音楽学を学ぶ意味について、総合的に学習します。

1. フィールドワークとは何か
2. フィールドワークの多様性について
3. フィールドワークが明らかにすること
4. フィールドワークと先行研究
5. フィールドワークと文献研究
6. フィールドワーク実施のための課題
7. 共同研究としてのフィールドワーク
8. 音楽にとって事実とは何か
9. フィールドワークによって得られたデータ処理の手法
10. フィールドワークと音楽学の新しい展開
11. ～13.
各受講者にとってのフィールドワークの意味を確認する
14. ～15.
受講者それぞれの音楽体験・環境がどのような研究方法を可能にするかについて具体的に検討する。

科目名	音楽学の方法 B	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	小沢 優子	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

楽曲分析の方法、楽曲分析の目的について学ぶ。
分析を通して作品を把握し、音楽を学問的な視点から考察するようになる。

●履修上の条件及び履修の方法

実際に楽曲を分析するので、積極的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

●試験方法及び成績評価方法

出席状況（60％）と学年末のレポート（40％）で成績を評価する。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 ソナタ形式（1）構造
- 3回 ソナタ形式（2）モーツァルトのピアノ・ソナタの分析
- 4回 ソナタ形式（3）ベートーヴェンのピアノ・ソナタの分析
- 5回 ソナタ形式（4）分析結果の考察
- 6回 リトルネロ形式（1）構造
- 7回 リトルネロ形式（2）ヴィヴァルディの協奏曲の分析
- 8回 リトルネロ形式（3）J. S. バッハの協奏曲の分析
- 9回 リトルネロ形式（4）分析結果の考察
- 10回 フーガ（1）構造
- 11回 フーガ（2）J. S. バッハのフーガの分析
- 12回 フーガ（3）分析結果の考察
- 13回 さまざまなアプローチ（1）シューマンの《子供の情景》
- 14回 さまざまなアプローチ（2）曲集としての統一・標題性
- 15回 分析の意義

科目名	音楽教育演習 I	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	柴田 篤志	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

中学校音楽科の教材研究を通して、教科指導の基礎的な知識について演習形式で学習します。

●履修上の条件及び履修の方法

音楽科教育法 I の単位取得者もしくは履習中であること。

●試験方法及び成績評価方法

授業冒頭に、前回までの内容に基づく小テストを行います。
それぞれの課題に合格ラインを設け、それに到達しなければ冒頭テストの量が積み上げられます。復習をしっかりとすること。
小テストの合格数がこちらの要求基準をどの程度満たすかで評価します。

●テキスト（必携）

- 《No.1.》書籍名：中学生の音楽 1、出版社：教育芸術社
- 《No.2.》書籍名：中学生の音楽 2・3 上、出版社：教育芸術社
- 《No.3.》書籍名：中学生の音楽 2・3 下、出版社：教育芸術社
- 《No.4.》書籍名：中学生の器楽、出版社：教育芸術社
- 《No.5.》書籍名：中学音楽 1 音楽のおくりもの、出版社：教育出版
- 《No.6.》書籍名：中学音楽 2・3 上 音楽のおくりもの、出版社：教育出版
- 《No.7.》書籍名：中学音楽 2・3 下 音楽のおくりもの、出版社：教育出版
- 《No.8.》書籍名：中学器楽 音楽のおくりもの、出版社：教育出版

●授業内容

1. ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
2. 夏の思い出
3. 浜辺の歌
4. 赤とんぼ
5. 花
6. 荒城の月
7. 花の街
8. 早春賦
9. 歌舞伎「勸進帳」
10. 歌劇「アイダ」
11. 雅楽「越天楽」
12. 交響曲「ブルタバ」
13. 歌曲「魔王」
14. ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」
15. ヴィヴァルディ「春」

科目名	音楽教育演習Ⅱ	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	柴田 篤志	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

中学校音楽科の指導法の基礎について、演習形式で学習します。教科指導に必要な技術を、音楽教育演習Ⅰでの知識・経験を援用しながら固めることが目標です。

●履修上の条件及び履修の方法

音楽教育演習Ⅰ・音楽教育法Ⅰの両単位が取得済みであること、及び音楽科教育法Ⅱの単位取得もしくは履習中であること。

●試験方法及び成績評価方法

履修人数にも依りますが、1つの課題を全員にこなすことを求めます。課題毎に採点し、最終的に合算しますので、授業を欠席する（課題に参加しない）ことは「0点」に等しいと考えて下さい。なお、前時に次時の課題を示し、宿題を課します。

●テキスト（必携）

- 《No.1.》書籍名：中学生の音楽1、出版社：教育芸術社
- 《No.2.》書籍名：中学生の音楽2・3上、出版社：教育芸術社
- 《No.3.》書籍名：中学生の音楽2・3下、出版社：教育芸術社
- 《No.4.》書籍名：中学生の器楽、出版社：教育芸術社
- 《No.5.》書籍名：中学音楽1 音楽のおくりもの、出版社：教育出版
- 《No.6.》書籍名：中学音楽2・3上 音楽のおくりもの、出版社：教育出版
- 《No.7.》書籍名：中学音楽2・3下 音楽のおくりもの、出版社：教育出版
- 《No.8.》書籍名：中学器楽 音楽のおくりもの、出版社：教育出版

●授業内容

1. ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
2. 明という大空／青空へのぼろう
3. 主人は冷たい土の中へ／Believe
4. パフ／翼をください
5. あの鳥のように／やさしきアニー
6. 同上
7. 朝の風に
8. 光の中へ
9. 夢の世界を語りあおう
10. マイバラード
11. 夏の日のおくりもの
12. エーデルワイス／サンタ・ルチア
13. Tomorrow
14. 帰れソレントへ
15. 大地讃頌

科目名	音楽教育史	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	柴田 篤志	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

日本の学校音楽教育の歴史を扱います。明治から平成の学校教育での音楽科について、理念、内容、方法、制度などを解説していきます。

●履修上の条件及び履修の方法

一年次の「音楽教育の課題」「音楽教育の方法」の単位を取得していることが望ましいです（必須ではありません）。

●試験方法及び成績評価方法

出席重視です。総授業回数のおよそ三分の一を超えて欠席した場合、単位はできません。試験は最終授業時を利用して行います。

●テキスト（必携）

●授業内容

1. 音楽教育史（西洋）概論
2. 日本の音楽教育制度史（明治前期）
3. 日本の音楽教育制度史（明治後期）
4. 日本の音楽教育制度史（大正、昭和、平成）
5. 音楽教育カリキュラム史
6. 音楽教材（教科書）史
7. 高等教育における音楽科の変遷
8. 特殊教育における音楽科
9. 学習指導要領による音楽科（1）
10. 学習指導要領による音楽科（2）
11. 専門教育（音楽大学）の変遷
12. 女子教育としての音楽科
13. メディアの発達と音楽科教育
14. 音楽科教育上の重要人物（肖像と個人史）
15. 試験

科目名	音楽教育の課題	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	柴田 篤志	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

現在、小・中・高で行われている音楽教育とはどのようなものでしょうか。これを認識することを目標とします。また、そうした現状をどう評価し、どのように変えていくべきかについて「自分の意見」を確立し、主張できるようになることを目指します。

●履修上の条件及び履修の方法

教科書は用いませんが、講義ごとにプリントを配布します。

●試験方法及び成績評価方法

試験は行いません。
レポート課題による評価になります。

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：音楽教育を読む
著者名：野村孝治、中山裕一郎（編著）
出版社：音楽之友社

●授業内容

1. オリエンテーション
2. 古代中国、ギリシャの音楽教育観
3. ローマ・中世の音楽教育観
4. ルネサンス、市民革命時代の音楽教育観
5. 19, 20世紀の音楽教育観（1）
6. 19, 20世紀の音楽教育観（2）
7. 19, 20世紀の音楽教育観（3）
8. 伊沢修二と童謡運動
9. 鈴木鎮一と才能教育
10. 諸井三郎と学習指導要領
11. 園部三郎とわらべ歌教育
12. 斎藤喜博と個性伸長教育
13. 小泉文夫と音楽相対化論
14. 山住正巳と唱歌教育研究
15. 西洋、日本まとめ

科目名	音楽教育の方法	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	柴田 篤志	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

音楽を教育することに関する具体的な問題についての認識を深めます。「課題」においては、こうあるべきである、という大まかな理想について扱いますが、「方法」では、実際にそうした理想が運用されるに当たってどんな問題が生ずるのか、それを解決するためにどんな対応をするのが望ましいのか、について考えます。特に、自分の考えを文章で示す力を伸ばすことが主眼になってきます。

●履修上の条件及び履修の方法

音楽教育の課題を履修済みであることが望ましい（必須ではありません。）

●試験方法及び成績評価方法

講義の課題ごとに1～2のレポートを授業の時間内に課します。制限時間はレポートの題目によって異なります。いつレポートが課されるかは予告されることもありますが、抜き打ちである可能性もあります。最終的に10本以上のレポートを提出することになりますので、それらを総合して成績判定の材料とします。従って特別に試験は設けません。

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：音楽教育を読む
著者名：野村孝治、中山裕一郎（編著）
出版社：音楽之友社

●授業内容

1. 学校行事としての合唱について（1）
2. 同上（2）
3. 学校教育における唱法について（1）
4. 同上（2）
5. 音楽科の目標について（1）
6. 同上（2）
7. 同上（3）
8. 音楽科における評価について（1）
9. 同上（2）
10. 同上（3）
11. 音楽の授業時数について
12. 音楽教科書と教材の推移について
13. 音楽科の存在意義について（1）
14. 同上（2）
15. 同上（3）

科目名	音楽心理学	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	栗林 文雄	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

音楽という我々にとってなじみの深い芸術活動を主題にし、その発生、歴史、社会的役割とその変遷などを学ぶ。また音の物理的側面の理解、人間の音楽に対する生理的、心理的な反応を探り、音楽行動全般についての基礎的な理解を深めることが目的である。

(到達目標) 学生は議論されるトピックについて、その75%以上を理解する。

●履修上の条件及び履修の方法

(注) 将来、音楽療法関係科目を履修する予定の1年生は、秋学期にこの科目を履修しておくこと。学生は受講しながら、重要な言葉をメモしておく。そのメモを資料として、A4用紙一枚の講義レポートを作成する。レポートの書き方は講義で説明する。

●試験方法及び成績評価方法

レポートと出席：40%、期末テスト：40%、プロジェクト発表：20%

(注) プロジェクト発表に関しては授業の中で説明する。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1～3 インTRODクシヨン 導入、コースの課題設定、評価方法の説明など
音楽と人間、社会と文化、メリアムによる音楽の社会的機能について
音とその性質、楽音と雑音、音楽の起源、音とはなにか、音の受容のプロセス、耳の構造、音響現象の基礎
- 4～6 リズムの基礎 リズム理論、マーセルの考え、ガストンの理論
リズムの構造(マーセルとゴードン)、リズムの理論
旋律と和声、旋律とは、その構造、ランディンの定義
和声とは、その構造、特異性、心理学的な特性、調性、中心音
- 7～9 情緒行動と音楽 情緒について、マイヤーの理論、情緒反応のタイプ
研究方法、ヘプナーのチェックリスト、哲学的な研究
好みについて、ハーンの研究、絶対主義、相対主義
人気のある様式、変化する好み
- 10～11 機能的な音楽 音楽の機能、刺激的音楽、鎮静的音楽、さまざまな儀式と音楽、背景音楽、商業的使用、工業的使用、療法的な音楽の活用
期末テスト
- 12～15 音楽の療法的使用について

科目名	音楽制作演習Ⅰ	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	水野 義子	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

- ・後に、ポピュラー音楽のアレンジや、アドリブができるようになるための、ポピュラー音楽の基礎を半年間でしっかり固める!
- ・ポピュラージャズ理論を知識だけでなく、トレーニングを積み重ねて体得する。

●履修上の条件及び履修の方法

苦手意識やめんどくさいを排除して、トレーニングを積み、紙の上の知識ではなく実践できるものに高めよう。半年間こつこつ努力できること。

●試験方法及び成績評価方法

課題曲のアレンジ及び演奏データ提出。
授業内での課題の達成度も評価対象。

●テキスト（必携）

《No.1.》

書籍名：松田昌の音楽トレーニング

著者名：松田 昌

出版社：ヤマハミュージックメディア

《No.2.》

書籍名：松田昌の音楽講座 ポピュラーアレンジの基礎知識

著者名：松田 昌

出版社：ヤマハミュージックメディア

●授業内容

(1～15回)

- ・基礎知識 音階と音程(数字に強くなる)
- ・コードとボイスンク(メジャー、マイナー、セブンスコード / クローズド、スプレッド)
- ・コードプログレッション(ダイアトニックコード、ドミナントモーション、トゥーフাইブ 他)

科目名	音楽制作演習Ⅱ	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	水野 義子	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

エレクトーン（STAGEA）の美しい音作りができるように、また、さまざまな機能をマスターし、自分の演奏表現に活かせるようになることを目指します。

●履修上の条件及び履修の方法

いろいろなジャンルに対応できる電子オルガンです。自分の得意でない分野に関する機能も、全て習得するよう心がけてください。

●試験方法及び成績評価方法

最終課題は演奏データ提出。
授業内の課題制作、積極的な授業参加も評価に含む。

●テキスト（必携）

《No.1.》

書籍名：エレクトーンステージ徹底攻略応用編
著者名：ヤマハミュージックメディア
出版社：ヤマハミュージックメディア

●授業内容

- 1～4回 基本的な機能の確認
音選びと組み合わせ方
- 5～7回 リズムの打ち込み
- 8～9回 ボイスエディット
- 10～12回 エフェクトの知識と使い方
- 13～14回 市販データを分析
具体的なアイデアを習得
- 15回 課題作品発表とまとめ

科目名	音楽制作演習Ⅲ	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	松田 昌	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

コードプログレッションを理解し、作曲、アレンジ、即興演奏などに活用する。

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

フロッピーディスクに課題に対する演奏を入力し提出する。

●テキスト（必携）

《No.1.》 書籍名：松田昌の音楽トレーニング
著者名：松田昌
出版社：ヤマハミュージックメディア
備考：2月上旬発売
《No.2.》 書籍名：エレクトーンメロディーズ
ベストセレクションVol.1
出版社：ヤマハ

●授業内容

- 1) 長音階と音程
- 2) メジャーコードとマイナーコード
- 3) コードの連結
- 4) トニック、ドミナント、サブドミナント。I、IV、Vの12Keyトレーニング
- 5) II、III、VIの和音
- 6) コードネーム付きメロディー譜を弾こう！
- 7) 10度伴奏のピアノ曲アレンジ
- 8) ベースラインの作り方
- 9) メロディーフェイク
- 10) モチーフの展開
- 11) コード分析と暗譜のコツ
- 12) コードネーム付きのメロディー譜をアレンジして弾こう！～1～
- 13) コードネーム付きのメロディー譜をアレンジして弾こう！～2～
- 14) 即興演奏 ～1～
- 15) 即興演奏 ～2～

科目名	音楽制作演習Ⅳ	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	松田 昌	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

コードプログレッションを理解し、作曲、アレンジ、即興演奏などに活用する。

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

フロッピーディスクに課題に対する演奏を入力し提出する。

●テキスト（必携）

≪No.1.≫ 書籍名：松田昌の音楽トレーニング
 著者名：松田昌
 出版社：ヤマハミュージックメディア
 備考：2月上旬発売
 ≪No.2.≫ 書籍名：エレクトーンメロディーズ
 ベストセレクション Vol.1
 出版社：ヤマハ

●授業内容

- 1) セブンスコード
- 2) セブンスコードの連結
- 3) 4声スプレッド
- 4) 4声スプレッドの電子オルガンへの応用
- 5) ドミナントモーション
- 6) トゥーフाइブ
- 7) 代理コード
- 8) コード付けの実際
- 9) テンションコード
- 10) 3声テンションコード
- 11) ブルース ～1～
- 12) ブルース ～2～
- 13) ブルースⅠ～Ⅳのアドリブ
- 14) ブルース循環コードのアドリブ
- 15) ブルースのアドリブ

科目名	音楽制作演習Ⅴ	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	稲垣 智保	単位	1	年次	3

●授業科目の目標

ポピュラー音楽の編曲には、知識・経験が必要です。曲の分析をすることにより、知識を深め、編曲・演奏能力を身につける。

●履修上の条件及び履修の方法

毎回の積み重ねにより習得ができることです。根気強く積極的に取り組んでください。

●試験方法及び成績評価方法

試験（構成のスケッチと分析力）により評価する。出席日数が2/3に満たない場合は、出席不足による受験資格喪失とみなし、試験を受験することはできません。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 授業ガイダンス
- 2回～10回 構成のスケッチと分析
- 11回 イントロ・エンディングの手法
- 12回 コード進行の研究
- 13回 演奏法・レジストレーションについて
- 14回 まとめ
- 15回 試験

科目名	音楽制作演習Ⅵ	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	稲垣 智保	単位	1	年次	3

●授業科目の目標

音楽制作演習Ⅴをもとに、電子オルガンでの効果的な編曲、演奏法を研究する。

●履修上の条件及び履修の方法

実習の作業（編曲・演奏）に、しっかり時間をとって課題をこなしてください。

●試験方法及び成績評価方法

定期試験（編曲演奏）と平常点（編曲への取り組み）により評価する。
出席日数が2/3に満たない場合は、出席不足による受験資格喪失とみなし、試験を受験することはできません。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 授業ガイダンス
- 2～5回 課題曲の編曲
- 6～9回 自由曲の編曲
- 10～12回 課題曲の編曲
- 13～14回 編曲楽譜を完成させる
- 15回 試験

科目名	音楽制作演習Ⅶ	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	杉本 知世	単位	1	年次	4

●授業科目の目標

- ・コードプログレッションを理解し、良いメロディー作り、良い作品作りを目標とする。
- ・自己の持つ創作能力の可能性を上げることを目指す。

●履修上の条件及び履修の方法

- ・テキストによりコードプログレッションの理解とソロ楽器としての電子オルガン演奏（即興演奏含む）の研究
- ・スタンダードナンバーより実例をあげ、メロディーとコード分析。また毎回の授業内容を反映させた課題を翌週の授業で発表する。

●試験方法及び成績評価方法

課題提出を70%、授業内の課題発表及び授業への参加姿勢の評価を30%とする。

●テキスト（必携）

- 《No.1.》
書籍名：松田昌の音楽講座 ポピュラーアレンジの基礎知識
著者名：松田昌
出版社：ヤマハミュージックメディア
- 《No.2.》
書籍名：エレクトーンメロディーズベストコレクションVo.1
出版社：ヤマハ

●授業内容

- 1回 セカンダリー ドミナント セブン
- 2回 II m7-V7 (トウ ファイブ)
- 3回 ドミナント セブンの代理コード
- 4回 デイミニッシュ コードの使い方
- 5回 コードパターン
- 6回 マイナー・キー
- 7回 テンション
- 8回 テンション・リゾルブ
- 9回 クリシェ
- 10～11回 ドミナント セブンの継続
- 12～13回 コードパターンの発展
- 14回 偽終止
- 15回 まとめ

科目名	音楽制作演習Ⅷ	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	杉本 知世	単位	1	年次	4

●授業科目の目標

- ・コードプログレッションを理解し、良いメロディ、良い作品作りを目標とする。
- ・自己の持つ創作能力の可能性を拓けることを目指す。

●履修上の条件及び履修の方法

- ・テキストによりコードプログレッションの理解とソロ楽器としての電子オルガン演奏（即興演奏含む）の研究
- ・スタンダードナンバーより実例をあげ、メロディーとコード分析。また毎回の授業内容を反映させた課題を翌週の授業で発表する。

●試験方法及び成績評価方法

課題提出を70%、授業内の課題発表及び授業への参加姿勢の評価を30%とする。

●テキスト（必携）

《No.1.》

書籍名：松田昌の音楽講座 ポピュラーアレンジの基礎知識

著者名：松田昌

出版社：ヤマハミュージックメディア

《No.2.》

書籍名：エレクトーンメロディーズベストセレクションVo.1

出版社：ヤマハ

●授業内容

- 1回 転調 (1)
- 2回 4声スプレット (1)
- 3回 4声スプレット (2)
- 4~7回 アヴェイラブルノートスケール
- 8~9回 ドミナントセブンの6つのスケール
- 10回 デイミニッシュコードスケール
- 11回 マイナーキーの I
- 12回 ペダルポイント
- 13回 オンコード 分数コード
- 14回 ターンバック
- 15回 まとめ

科目名	音楽制作技法Ⅰ	形態	演習	開講期	春
担当教員	田頭 勉	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

音楽制作におけるDTMの活用法を理解することを目指す。

●履修上の条件及び履修の方法

各回ごとに学生にもその題材を提案させ発表をしていただきます。

●試験方法及び成績評価方法

授業内での発表内容を評価します。

試験は行いません。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 音楽制作におけるDTMの活用1
- 3回 音楽制作におけるDTMの活用2
- 4回 音楽制作におけるDTMの活用3
- 5回 音楽制作におけるDTMの活用4
- 6回 音楽制作におけるDTMの活用5
- 7回 音楽制作におけるDTMの活用6
- 8回 音楽制作におけるDTMの活用7
- 9回 ProToolsの概要1
- 10回 ProToolsの概要2
- 11回 ProToolsの概要3
- 12回 ProToolsの概要4
- 13回 ProToolsの概要5
- 14回 ProToolsの概要6
- 15回 ProToolsの概要7

科目名	音楽制作技法Ⅱ	形態	演習	開講期	秋
担当教員	田頭 勉	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

音楽制作におけるDTMの活用法を理解することを目標とする。

●履修上の条件及び履修の方法

各回ごとに学生にもその題材を提案させ発表をしていただきます。

●試験方法及び成績評価方法

授業内での発表内容を評価します。試験は行いません。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 MIDIデータの作成について1
- 3回 MIDIデータの作成について2
- 4回 MIDIデータの作成について3
- 5回 MIDIデータの作成について4
- 6回 MIDIデータの作成について5
- 7回 MIDIデータの作成について6
- 8回 MIDIデータの作成について7
- 9回 ProToolsにおける録音とMIXについて1
- 10回 ProToolsにおける録音とMIXについて2
- 11回 ProToolsにおける録音とMIXについて3
- 12回 ProToolsにおける録音とMIXについて4
- 13回 ProToolsにおける録音とMIXについて5
- 14回 ProToolsにおける録音とMIXについて6
- 15回 ProToolsにおける録音とMIXについて7

科目名	音楽制作理論Ⅰ	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	小高 直樹	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

MIDIの基礎知識をコンピュータ、音源等を用いて学習する。MIDI信号の流れ、MIDIメッセージの内容等を理解していく。

●履修上の条件及び履修の方法

D402の利用の方法やマナーを守るようにつとめること。

●試験方法及び成績評価方法

データ入力試験等

●テキスト（必携）

●授業内容

1. シーケンサー概要
- 2～3. ステップタイム及びリアルタイム入力。ペロシティー、デュレーションについて
4. 様々なシーケンサー機能について
- 5～7. コントロールチェンジ
8. セットアップ概要
- 9～11. コントロールチェンジ
12. エクスクルーシブデータについて
- 13～14. MIDIデータ作成
15. まとめ

科目名	音楽制作理論Ⅱ	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	小高 直樹	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

MIDIの知識を掘り下げ、さらにオーディオを含んだシーケンスに取り組んでいく。

●履修上の条件及び履修の方法

MIDIの基礎知識が理解できている事

●試験方法及び成績評価方法

作品課題提出

●テキスト（必携）

●授業内容

1. オーディオデータ概要
2. オーディオデータ編集
- 3～4. MIDIデータとの複合
- 5～6. さまざまなエフェクト
7. ミックスダウン
- 8～15. 楽曲制作

科目名	音楽制作理論Ⅲ	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	大河内 俊則	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

1. 音響機器の使用法を理解し、デジタル録音の基本について理解する。
2. ポピュラー音楽の基本的なアレンジができるようになる。

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

定期試験は行わないが、必要に応じて小テストを実施する。出席（10%）、小テスト（30%）、アレンジ課題（30%）、制作した録音物（30%）を総合して評価する。

●テキスト（必携）

書籍名：デジタル・ミュージック・プロセッシング
 著者名：則安治男、岩下哲也など
 出版社：専門教育出版
 ISBN4-88324-060-6

●授業内容

1. 授業概要、音の基礎
2. 電気の基礎
3. オーディオの基礎
4. 音響機器1（概要、接続）
5. 音響機器2（インピーダンス、信号レベル）
6. ミキサー1（概要）
7. ミキサー2（BUS）
8. ミキサー3（AUX）
9. デジタルオーディオの基礎1（アナログとデジタル）
10. デジタルオーディオの基礎2（二進法）
11. PCMの原理（標準化・量子化）
12. コンピュータ概論
13. コンピュータ・ハードウェア1（CPU）
14. コンピュータ・ハードウェア2（I/F）
15. まとめ

上記と平行して、種々のアレンジスタイルについて研究する。

科目名	音楽制作理論Ⅳ	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	大河内 俊則	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

1. シンセサイザー（音源）の基本的操作が理解でき、音色作成が自由にできるようになる。
2. 基本的なミックスダウンができるようになる。
3. クラシック音楽の基本的なアレンジができるようになる。

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

定期試験は行わないが、必要に応じて小テストを実施する。出席（10%）、小テスト（30%）、アレンジ課題（30%）、制作した録音物（30%）を総合して評価する。

●テキスト（必携）

書籍名：デジタル・ミュージック・プロセッシング
 著者名：則安治男、岩下哲也など
 出版社：専門教育出版
 ISBN4-88324-060-6

●授業内容

1. シンセサイザー概要
2. アナログシンセサイザー（VCO）
3. アナログシンセサイザー（VCF）
4. アナログシンセサイザー（VCA）
5. アナログシンセサイザー（LFO、ENV）
6. FMシンセサイザー
7. サンプリングシンセサイザー概要
8. サンプリングシンセサイザー（サンプリング）
9. サンプリングシンセサイザー（ループ）
10. サンプリングシンセサイザー（ライブラリ制作）
11. ミキシング（EQ）
12. ミキシング（リバーブ）
13. ミキシング（コンプレッサー）
14. ミキシング（総合）
15. まとめ

上記と平行して、種々のアレンジスタイルについて研究する。

科目名	音楽制作理論Ⅴ	形態	講義	開講期	春
担当教員	田頭 勉	単位	2	年次	3

●授業科目の目標

クラシック音楽の概要を把握したうえでポピュラー音楽の基本的制作理論を理解することを目標とする。

●履修上の条件及び履修の方法

各回ごとに学生にもその題材を提案させ発表をしていただきます。

●試験方法及び成績評価方法

授業内での発表内容を評価します。試験は行いません。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 バッハ以前の音楽について
- 3回 バロック音楽について
- 4回 古典派音楽について
- 5回 ロマン派音楽について
- 6回 近代音楽について
- 7回 現代音楽について
- 8回 クラシック音楽の総括
- 9回 ポピュラー音楽について
- 10回 クラシック音楽における和声とポピュラー音楽におけるコードプログレッションの比較1
- 11回 クラシック音楽における和声とポピュラー音楽におけるコードプログレッションの比較2
- 12回 クラシック音楽における和声とポピュラー音楽におけるコードプログレッションの比較3
- 13回 クラシック音楽における形式とポピュラー音楽における形式の比較1
- 14回 クラシック音楽における形式とポピュラー音楽における形式の比較2
- 15回 クラシック音楽における形式とポピュラー音楽における形式の比較3

科目名	音楽制作理論Ⅵ	形態	講義	開講期	秋
担当教員	田頭 勉	単位	2	年次	3

●授業科目の目標

Vの内容を踏まえ、より深い分析をすることによって実制作に役立つ音楽制作理論を身につけることを目標とする。

●履修上の条件及び履修の方法

各回ごとに学生にもその題材を提案させ発表をしていただきます。

●試験方法及び成績評価方法

授業内での発表内容を評価します。試験は行いません。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 インストルメンタル作品の分析 1
- 3回 インストルメンタル作品の分析 2
- 4回 インストルメンタル作品の分析 3
- 5回 インストルメンタル作品の分析 4
- 6回 インストルメンタル作品の分析 5
- 7回 インストルメンタル作品の分析 6
- 8回 インストルメンタル作品の分析 7
- 9回 ボーカル付き作品の分析 1
- 10回 ボーカル付き作品の分析 2
- 11回 ボーカル付き作品の分析 3
- 12回 ボーカル付き作品の分析 4
- 13回 ボーカル付き作品の分析 5
- 14回 ボーカル付き作品の分析 6
- 15回 ボーカル付き作品の分析 7

科目名	音楽制作理論Ⅶ	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	大河内 俊則	単位	2	年次	4

●授業科目の目標

音楽制作の道具としてのコンピュータではなく、作曲プロセスのひとつの方法としてのコンピュータについて研究する。従来のシーケンサー上でのデータ作成ではなく、“コンピュータによる作曲”を試みる。この授業では、コンピュータおよびプログラムの仕組みを理解し、MIDIのより低水準な部分について知り、インタラクティブアートにおけるコンピュータの使い方について考察できるようにする。

●履修上の条件及び履修の方法

授業時間外の自習が必要。

●試験方法及び成績評価方法

定期試験は行わない
出席（50%）、授業中に制作した課題（50%）により、評価する。

●テキスト（必携）

●授業内容

1. コンピュータプログラミングの基礎
2. MIDIメッセージ概要
3. プログラミング概要
4. インタラクティブアート概要
5. Max：導入
6. Max：編集、接続、メッセージ
7. Max：カウンター、
8. Max：時間、乱数
9. Max：ワイヤレス、サブパッチ、ローカル・グローバル
10. Max：配列
11. Max：ループ
12. Max：条件判断
13. Max：MIDI
14. Max：パッチ制作演習
15. Max：パッチ制作演習

科目名	音楽制作理論Ⅷ	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	大河内 俊則	単位	2	年次	4

●授業科目の目標

Ⅶに続き、コンピュータによる作曲を研究する。Ⅷでは、PureDataの音響処理と、外部インターフェイス（Gainer）を使用した、インタラクティブなコンピュータ音楽について理解する。

●履修上の条件及び履修の方法

授業時間外の自習が必要。

●試験方法及び成績評価方法

定期試験は行わない
出席（50%）、授業中に制作した課題（50%）により、評価する。

●テキスト（必携）

●授業内容

1. Max/MSP：振幅、周波数の操作
2. Max/MSP：時間の操作
3. Max/MSP：周波数変調、サンプリング
4. Max/MSP：フィルター
5. 外部インターフェイス概論
6. Gainer：導入
7. Gainer：入力・出力
8. 外部オブジェクトの計画1
9. 外部オブジェクトの計画2
10. 外部オブジェクトの制作1
11. 外部オブジェクトの制作2
12. 外部オブジェクトの制作3
13. 外部オブジェクトの制作4
14. インタラクティブ作品への応用1
15. インタラクティブ作品への応用2

科目名	音楽と社会	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	西崎 専一	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

この科目の内容は「社会」をどう捉えるかによって大きく異なってきます。ここでは、現代社会を念頭におき、政治経済等の社会的状況が音楽をする人々のあり方にどのように反映するかを中心に考察します。

●履修上の条件及び履修の方法

このテーマに関心を持つ学生であれば、専攻・年次にかかわらず、受講できます。講義の理解と同時にテキストや関連文献の学びも望まれます。

●試験方法及び成績評価方法

評価は平常の受講態度、出席内容、レポートの成果などを総合的に加味して行います。

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：オーケストラから時代が聴こえる、著者名：西崎専一、出版社：風媒社、販売先：販売方法は開講時における版本（出版社）在庫部数などを確認しながら検討し、連絡します。

●授業内容

テキスト「オーケストラから時代が聴こえる」を学びながら、現代社会のなかで音楽することの意味を考察します。

1. 愛知県におけるオーケストラ活動の現況とそこに含まれる諸問題について
2. 現代社会（20世紀末から21世紀）とはどのような時代であるのか。
3. ～ 7. 20世紀末のヨーロッパ社会の変動とそこで活動する音楽家の姿について
8. ～ 1 3. 日本、特に名古屋における音楽活動と社会状況の関係について
- 1 4. バブルの経済とその崩壊が、日本の音楽界にもたらした影響について
- 1 5. 自治体としての愛知県名古屋市の財政状況とそれがこの地域の音楽団体の活動に与えている問題について

科目名	音楽と人生Ⅰ	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	宇治谷 顕	単位	2	年次	1～

●授業科目の目標

本講座は大学内外の多くの著名人・教員によって、多面的な方向から、音楽と人生の深い関わりについて、共に考えることを主眼として開設された講座である。とりわけ、今日、グローバル社会の実現が求められる時代、音楽芸術を学ぶ際には、西洋及び東洋音楽の背景にある精神や文化への深い洞察と豊かな教養を修得することが不可欠となる。こうした、芸術的知性に裏付けられたとき、その演奏は初めて芸術として高められ、演奏される曲目は真に芸術作品として認められ、多くの人々を魅了、楽しむことができるのである。さらに人間としての生き方についても、多様な分野から講師を招聘し、来るべき社会人としての自覚と自立を育成する講座を開設する。生涯を通じた持続可能な人間力と社会に貢献する就業力を指導・養成する。こうした芸術的知性と人間力の探求こそが、本講座の主要なテーマである。

●履修上の条件及び履修の方法

主に学外から講師を招聘して開講するため、聴講する学生諸君は大学生らしい受講態度で臨んでいただきたい。講師等の案内はその都度（約1週間前）学務課へ掲示するので注意すること。
・金曜日 第4限目（午後2時40分～午後4時10分）90分

●試験方法及び成績評価方法

平常の学習状況及び出席状況を鑑み、学期末に行なうレポート試験の内容を総合的に評価する。

●テキスト（必携）

●授業内容

（平成22年度春学期に開講した授業内容）

1. 黒田 慧慶 本学教員
2. 宇治谷 顕 本学教員
3. 越智知子／章仁 本学卒業生
4. 黒田 和良 本学講師（ジャズ実技）
5. 照喜名俊典 ユーフォニアム奏者
6. 坪内 浩文 オンド・マルトノ奏者
7. 岡崎美奈江 本学卒業生
8. 森 久子 本学講師（ジャズVо実技）
9. 廣川 恵理 本学教員
10. 川上 竜生 紙芝居師
11. 黒田 慧慶 本学教員

開講にあたって
「共なるいのち」を生きる
音楽と人生
音楽の聴き方、聴かせ方について
音楽を仕事にすること
テルミンとオンド・マルトノ
箏（琴）との出会い
私の音楽史「私を支えたもの」
音楽療法について
音楽紙芝居
まとめ・試験

科目名	音楽と人生Ⅱ	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	宇治谷 顕	単位	2	年次	1～

●授業科目の目標

本講座は大学内外の多くの著名人・教員によって、多面的な方向から、音楽と人生の深い関わりについて、共に考えることを主眼として開設された講座である。とりわけ、今日、グローバル社会の実現が求められる時代、音楽芸術を学ぶ際には、西洋及び東洋音楽の背景にある精神や文化への深い洞察と豊かな教養を修得することが不可欠となる。こうした、芸術的知性に裏付けられたとき、その演奏は初めて芸術として高められ、演奏される曲目は真に芸術作品として認められ、多くの人々を魅了、楽しむことができるのである。さらに人間としての生き方についても、多様な分野から講師を招聘し、来るべき社会人としての自覚と自立を育成する講座を開設する。生涯を通じた持続可能な人間力と社会に貢献する就業力を指導・養成する。こうした芸術的知性と人間力の探求こそが、本講座の主要なテーマである。

●履修上の条件及び履修の方法

主に学外から講師を招聘して開講するため、聴講する学生諸君は大学生らしい受講態度で臨んでいただきたい。講師等の案内はその都度（約1週間前）学務課へ掲示するので注意すること。
・金曜日 第4限目（午後2時40分～午後4時10分）90分

●試験方法及び成績評価方法

平常の学習状況及び出席状況を鑑み、学期末に行なうレポート試験の内容を総合的に評価する。

●テキスト（必携）

●授業内容

（平成22年度秋学期に開講した授業内容）

1. 黒田 慧慶 本学教員
2. 小串 俊寿 サックス奏者
3. ダリオ・ボニッソイ オペラ演出家
4. 照喜名一男 本学教員
5. 渡邊 孝晴 大手楽器店店長
6. 松田 昌 本学客員教授
7. 吉田 進 作曲家
8. 宮木 令子 本学講師（声楽実技）
9. 栗原 幸江 本学教授
10. 北川 晋 本学教授
11. 東儀 秀樹 本学客員教授
12. 城寿 昭 本学講師（ピアノ実技）
13. 黒田 慧慶 本学教員

謡曲のころ
音楽をもっと楽しもう
イタリアが生んだ総合芸術＝オペラ
私の歩んできた道
ピアノの歴史と構造について
鍵盤ハーモニカの面白さと工夫
パリからの演歌熱愛書簡
私の留学生生活
偉大な恩師
楽器研究 -最終版
音楽の想像と創造
ヨーロッパの東と西で見たもの
まとめ・試験

科目名	音楽の基礎 A,B	形態	講義	開講期	春・秋
担当教員	小沢 優子	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

楽典の基本や楽器、楽曲のジャンルなど、ヨーロッパ音楽を学ぶ上で必要とされる事柄について正しく理解する。
音楽の基礎を習得し、今後の演奏、創作、研究、教育のための支えとなるようにする。

●履修上の条件及び履修の方法

「楽典 理論と実習」（石桁真礼生 他、音楽之友社）などの楽典についての著作を読み、授業の内容を予習、復習することが望ましい。

●試験方法及び成績評価方法

出席状況（60%）、学期末の試験（40%）で成績を評価する。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 譜表・音部記号
- 3回 音名
- 4回 楽譜の種類
- 5回 楽語
- 6回 音階
- 7回 調
- 8回 拍子
- 9回 和音と和声（1）三和音・七の和音・九の和音
- 10回 和音と和声（2）和音の転回
- 11回 楽器（1）弦楽器
- 12回 楽器（2）管楽器・打楽器
- 13回 楽曲のジャンル（1）声楽曲
- 14回 楽曲のジャンル（2）器楽曲
- 15回 楽曲のジャンル（3）オペラ・授業内試験

科目名	音楽美学	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	西崎 専一	単位	2	年次	3

●授業科目の目標

本年度は、19世紀末以降、ヨーロッパの音楽が現代的な様相をたどっていく過程を、音楽と視覚的イメージとの関わりを通して考察します。
現代音楽の特質のひとつとして、音楽が単なる音響による表現であることを超えて様々なメディアとの関わりを求めはじめ、特に映像との関係を強めていることがあげられます。こうした傾向の先駆けとして、19世紀ロマン派の標題音楽における視覚的イメージの取り込みがあげられますが、これらの傾向がミュージック・コンクレートなどの前衛的な音楽のあり方に転換していく過程を概観します。そしてショスタコーヴィチ、武満徹などの映画音楽作品を検討することによって、映像と音楽のかかわりを通して音楽が視覚的なイメージをどう吸収するかを探ります。

●履修上の条件及び履修の方法

出来るだけ多くの映像作品を鑑賞しながら、音楽の使われ方やその効果について考え、さらには音楽そのものに内包されるイメージ表出の力について、出席者の関心を導いていきたいと考えています。積極的な授業参加を期待しています。なお、授業中の私語は厳禁です。

●試験方法及び成績評価方法

試験期間中に筆記試験を実施します。期末にはレポート課題を提示して、課題に従ったレポートの提出を求めます。その結果や受講姿勢、出席状況などを総合的に判断して行います。

●テキスト（必携）

●授業内容

1. 音楽は視覚的なイメージとどう関わり続けてきたか
2. バロック音楽のなかの具象的描写性について
3. バラードから標題音楽へ
4. ロマン派音楽における視覚的イメージの表象について
5. 標題音楽から劇音楽へ
6. 劇音楽から映画音楽へ
7. 武満徹の映画音楽について
8. ショスタコーヴィチの映画音楽について
9. 〃
10. 音楽におけるイメージとドラマの融合
11. 現代アメリカの映画における音楽のあり方について
12. 現代日本の映画における音楽のあり方について
13. 映画音楽のなかの民族音楽について
14. 現代音楽の技法と映画音楽との関わりについて
15. 映画音楽の可能性について（まとめとして）

科目名	音楽ビジネス研究Ⅰ	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	岩崎 将史	単位	2	年次	3

●授業科目の目標

音楽パッケージ、音楽メディア業界における基礎技術を学ぶ。特にホール運用を通じた原盤制作に関する基本技術を学ぶ。

●履修上の条件及び履修の方法

PCを使用した作業が発生します。PC未経験者でも履修可能ですが、ある程度基本動作ができるほうが望ましいです。書類、データなど受け渡しも現代ビジネス状況に合わせた実践を試みたいので、ノートPCの持込など大歓迎です。持っていない方でも受講に支障はありません。

●試験方法及び成績評価方法

スタジオでの実技試験を予定。スタジオ運用に置ける基本事項の修得度を評価します。

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：ハンドブック・オブ・レコーディング・エンジニアリング、著者名：Jhon M. Eargle 著 沢口真生訳、出版社：株式会社ステレオサウンド
 《No.2.》書籍名：ハンドブック・オブ・サウンド・システム・デザイン、著者名：Jhon M. Eargle 著 沢口真生訳、出版社：株式会社ステレオサウンド

●授業内容

1. 音楽パッケージ、メディア業界の概要
2. 音響学基礎1（音楽理論と音響理論の一致点）
3. 音響学基礎2（電気音響／オーディオ概論）
4. 音響学基礎3（デジタルオーディオ概論）
5. スタジオ運用基礎1（ワイヤリング／パッチの理解）
6. スタジオ運用基礎1（マイクバリエーションの理解）
7. スタジオ運用基礎1（レコーディング基礎）
8. スタジオ運用基礎1（キューシステムの理解）
9. ホール実習1（基本運用）
10. ホール実習2（音響設備基礎）
11. ホール実習3（収録基礎）
12. ホール実習4（PA/フロントオペレーション）
13. ホール実習5（PA/モニターオペレーション）
14. まとめ
15. 定期試験（ホール音響運用基礎実技）

※各内容の回数、進行の順番は習得状況、設備の仕様可能状況に合わせて若干変動する場合があります。

科目名	音楽ビジネス研究Ⅱ	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	岩崎 将史	単位	2	年次	3

●授業科目の目標

音楽ビジネス研究Ⅰにおいて習得した基礎をもとに、制作現場での実践的な技術と知識を習得する。

●履修上の条件及び履修の方法

音楽ビジネス研究Ⅰを履修済であること

●試験方法及び成績評価方法

原盤制作実習に置ける内容の理解、実習にて制作した作品にて評価。

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：ハンドブック・オブ・サウンド・システム・デザイン、著者名：Jhon M. Eargle 著 沢口真生 訳、出版社：株式会社ステレオサウンド

●授業内容

- 複数編成の音楽アンサンブルの原盤制作
1. 原盤制作概論Ⅰ
 2. 原盤制作概論Ⅱ
 3. マルチマイキング実習1
 4. マルチマイキング実習2
 5. ディレクション概論
 6. ディレクション実習1
 7. ディレクション実習2
 8. ミキシングの理解1（レベルとパンニング）
 9. ミキシングの理解2（オグジュアリー）
 10. ミキシングの理解3（EQとリバーブ）
 11. ミキシングの理解4（コンプレッション）
 12. ミキシング実習1
 13. ミキシング実習2
 14. マスタリング実習
 15. 音楽メディア概論／メディアアーカイブ

科目名	音楽プロデュース論	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	三宅 薫	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

音楽に関連する行事を広く理解して、公演や制作をプロデュースする知識を習得してゆく。特に、オーケストラマネージャーと音楽事務所の具体的な内容について考察する。

●履修上の条件及び履修の方法

音楽プロデューサーに強い好奇心を持つ学生のみ履修を認める

●試験方法及び成績評価方法

レポート提出と平常点の総合判断

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：アーツ・マーケティング入門 ―芸術市場に戦略をデザインする―、著者名：山田真一、出版社：水曜社

●授業内容

1. ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
2. 音楽が社会のビジネスとして成り立っている分野について
3. 日本の音楽界について（Ⅰ）
4. 日本の音楽界について（Ⅱ）
5. 音楽プロデューサー、音楽評論家、ジャーナリストに求められるもの
6. プレゼンテーションとは
7. ディストリビューションについて
8. 音楽著作権とは（Ⅰ）
9. 音楽著作権とは（Ⅱ）
10. 音楽著作権とは（Ⅲ）
11. コンサートの実務と流れ
12. プログラム立案のための常識問題について
13. コンサート関連用語集
14. 印刷物の制作について
15. 音楽界の今後の課題

科目名	音楽マネージメント論	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	三宅 薫	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

多岐にわたる音楽環境の中、その種別ごとに整理や分析をして幅広い音楽業界の知識を得る。その中から各自が目指している音楽マネージャーの選択ができるように役立てたい。

●履修上の条件及び履修の方法

音楽マネージャーに強い好奇心を持つ学生のみ履修を認める。

●試験方法及び成績評価方法

レポート提出と平常点の総合判断

●テキスト（必携）

●授業内容

1. ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
2. 音楽が社会のビジネスとして成り立っている分野について
3. オーケストラのマネージャーたち
4. 音楽業界とヒットチャートの舞台裏
5. 新メディアが広げる音楽ビジネスの可能性
6. レコード会社のしくみと業界地図
7. レコード会社の仕事
8. 業界をリードするキープレイヤーたち
9. マネージメントオフィスの仕事
10. 感動を演出するコンサート・ビジネス
11. 音楽出版社と権利ビジネスのゆくえ
12. 音楽著作権とは（Ⅰ）
13. 音楽著作権とは（Ⅱ）
14. レコード流通とソフトウェア流通
15. 現場からのアドバイス

科目名	音楽療法演習Ⅰ	形態	演習	開講期	春
担当教員	廣川 恵理	単位	1	年次	3

●授業科目の目標

1. 音楽療法のロールプレイを行い、実習の練習をする。
2. 各自が計画した対象者についての知識を高める。
3. 音楽療法の治療計画の書き方を学ぶ。
4. 音楽療法のセッションにおける援助の仕方について学ぶ。

●履修上の条件及び履修の方法

履修学生は、各自が順番に主セラピスト、コセラピスト、伴奏者、対象者の役割を担い、演習を行う。
主セラピストの学生は、一週間前までに活動計画を提出し、担当教員の添削指導を受ける。
主セラピストの学生は、授業前に、各役割の学生にセッションの内容について連絡、説明し、グループで準備、練習して演習に臨むこと。
履修学生は、テキストの第3章まで読み、感想文を授業の最終日に提出する。

●試験方法及び成績評価方法

授業参加態度10%、演習の内容50%、提出物の内容40%

●テキスト（必携）

〈No.1.〉書籍名：ケアを受ける人の心を理解するために、著者名：渡辺俊之、出版社：中央法規

●授業内容

1. 授業の説明、順番を決める、援助の仕方について。
2. フィールドワーク実習の1、2回目のセッションの準備。援助の仕方について。
3. フィールドワーク実習の3、4回目のセッションの準備。援助の仕方について。
4. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
5. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
6. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
7. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
8. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
9. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
10. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
11. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
12. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
13. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
14. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
15. 順番を決め、ロールプレイを行なう。感想文課題提出

科目名	音楽療法演習Ⅱ	形態	演習	開講期	秋
担当教員	廣川 恵理	単位	1	年次	3

●授業科目の目標

1. 音楽療法のロールプレイを行い、実習の練習をする。
2. 各自が計画した対象者についての知識を高める。
3. 音楽療法の治療計画の書き方を学ぶ。
4. 音楽療法のセッションにおける援助の仕方について学ぶ。

●履修上の条件及び履修の方法

履修学生は、各自が順番に主セラピスト、コセラピスト、伴奏者、対象者の役割を担い、演習を行う。
主セラピストの学生は、一週間前までに活動計画を提出し、担当教員の添削指導を受ける。
主セラピストの学生は、授業前に、各役割の学生にセッションの内容について連絡、説明し、グループで準備、練習して演習に臨むこと。
履修学生は、テキストの第4章から最後まで読み、授業の最終日に感想文を提出する。

●試験方法及び成績評価方法

授業参加態度10%、演習の内容50%、提出物の内容40%

●テキスト（必携）

〈No.1.〉書籍名：ケアを受ける人の心を理解するために、著者名：渡辺俊之、出版社：中央法規

●授業内容

1. 授業の説明、順番を決める、援助の仕方について。
2. 援助の仕方について。
3. 援助の仕方について。
4. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
5. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
6. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
7. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
8. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
9. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
10. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
11. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
12. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
13. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
14. 順番を決め、ロールプレイを行なう。
15. 順番を決め、ロールプレイを行なう。感想文課題提出

科目名	音楽療法各論Ⅰ	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	栗林 文雄	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

さまざまな原因により知的発達に障害を持つ児童や成人に対する理解を促し、彼らに対する音楽活動における留意点、援助する場合の問題点などを理解する。
また、自閉的傾向を持った児童に対する理解を深める。

●履修上の条件及び履修の方法

講義形式にて行う。参加学生は授業ごとにレポートを作成し提出する。

●試験方法及び成績評価方法

授業での参加態度20%、レポートの内容と実践内容30%、期末テスト50%

●テキスト（必携）

＜No.1.＞書籍名：音楽療法入門（上巻と下巻）第2版、著者名：デイビス 他（著）栗林文雄（訳）、出版社：一麦出版社

●授業内容

1. 知的発達遅滞とは、中枢神経の働きとその障害について、障害児をもつ家族の悩み、療育の難しさ
2. //
3. //
4. 知的発達障害児と音楽、援助の理論的側面
5. //
6. //
7. その活動のさまざまな体験、活動の実際、声かけ、動作、視線の重要性
8. //
9. //
10. 自閉症児とその理解
11
12. //
13. 児童に対するセッションの展開 (1)
14. // (2)
15. // (3)

科目名	音楽療法各論Ⅱ	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	廣川 恵理	単位	2	年次	3

●授業科目の目標

1. 精神疾患についての知識を得る。
2. 精神科における音楽療法について学ぶ。

●履修上の条件及び履修の方法

課題1：精神科、心療内科の領域の音楽療法についての論文を5編読み、レポートを書く。論文1編につきA4 1枚のレポートを提出する。はじめに、自分の名前を書き、論文の題名、著者名、文献名（掲載されていた本の題名、または学会誌の題名、巻、号、掲載ページ（何ページから何ページに掲載されていたか）、出版年、出版社名を明記する。レポートは、2段階に分け、一段落目は、その論文の内容のまとめを書く。2段落目には、自分の感じたこと、この論文から学んだ大切だと思うこと、実践に生かせると思ったことについて、また、疑問に思ったこと、などを書く。

課題2：精神科、心療内科のクライアントに対する音楽療法の活動計画を3つ作成する。そのうち1つは、クラスでは模擬セッションをやって発表する。活動計画の模擬セッションをクラスで行うときには、活動計画を人数分コピーして全員に配布する。

●試験方法及び成績評価方法

論文課題 各8%、活動計画 各10%、試験30%
*課題の提出が遅れると、減点となるので期限を守って提出すること。
*遅刻、欠席は減点となるので注意すること。
*授業には、予習して臨むこと。

●テキスト（必携）

＜No.1.＞書籍名：音楽療法入門 上・下巻、著者名：デイビス

●授業内容

1. 課題についての説明、音楽療法入門 上第5章
2. 音楽療法入門 上第5章、下第12章
3. 「標準音楽療法入門 上：理論編」第5章、その他
*論文課題1つ目提出
4. 「標準音楽療法入門 上：理論編」第6章(1)(2)(3)
*論文課題2つ目提出
5. 「標準音楽療法入門 上：理論編」第6章(4)(5)(6)
*論文課題3つ目提出
6. 「標準音楽療法入門 上：理論編」第6章(7)(8)(9)
*論文課題4つ目提出
7. 「標準音楽療法入門 下：実践編」第4章(1)第5章(1)
*論文課題5つ目提出
8. 「標準音楽療法入門 下：実践編」第5章(6)(7)
9. 「標準音楽療法入門 下：実践編」第6章、第7章
*活動計画1提出
10. 「標準音楽療法入門 下：実践編」第8章(2)、倫理について *活動計画2提出
11. 「音楽療法ケーススタディ 下」ケース26、即興演奏
*活動計画3提出
12. まとめ、その他、テストについて説明
13. 活動計画発表
14. 活動計画発表
15. テスト

科目名	音楽療法各論Ⅲ	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	廣川 恵理	単位	2	年次	3

●授業科目の目標

1. 高齢者の特徴について学ぶ。
2. 高齢者に対する音楽療法の理論と方法を学ぶ。
3. 高齢者に対する音楽療法の研究について知識を得る。

●履修上の条件及び履修の方法

1. 論文課題：高齢者の音楽療法に関連した論文5編を読み、それぞれレポートをA4用紙1枚にまとめて提出する。手書は不可。1段落目は、内容のまとめ。（要旨、抄録を丸写しは不可）2段落目は、自分の感想、学んだこと、疑問に思ったこと、実践にどのように生かされるか、など。
2. 高齢者対象の音楽療法活動計画：1. 言語リハビリ、2. 腕、手のリハビリ、3. 足、脚、歩行のリハビリ、4. 認知的な目的、5. QOLの向上、回想などを目的としたもの。その中で一つ自分の選んだものをクラスで発表。

●試験方法及び成績評価方法

課題と発表で50%、テスト40%、授業態度10%
 *欠席、遅刻、課題提出の遅れは減点となるので注意すること。

●テキスト（必携）

＜No.1.＞書籍名：高齢者のための療法的音楽活用、著者名：アリシア・クレア（著）廣川恵理（訳）、出版社：一麦出版社
 ＜No.2.＞書籍名：音楽療法入門 上・下巻、著者名：デイビス、グフェラー、タウト（著）栗林文雄（訳）、出版社：一麦出版社

●授業内容

1. 課題について説明、音楽療法の定義
2. 音楽療法入門（上）第6章、高齢者を対象とした音楽療法活動
3. クレア第1章、高齢者を対象とした音楽療法活動
4. クレア第6章、（補）試験問題（高齢者領域）、その他
5. クレア第8章、音楽療法入門（下）第12章 言語障害について
6. クレア第8章、音楽療法入門（下）第12章 身体的リハビリテーション
7. クレア第3章、クレア論文、認知症について
8. クレア第4章、論文課題発表
9. クレア第5章、回想法と音楽療法
10. クレア第7章、第9章
11. クレア第10章
12. テストについて説明、（補）試験問題（高齢者領域）
13. 活動計画発表
14. 活動計画発表
15. テスト

科目名	音楽療法総論Ⅰ	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	栗林 文雄	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

音楽のさまざまな機能を医療や福祉の分野に応用しながら展開される音楽療法の多様な側面を知り、それを支えている諸理論を概観するための導入クラスである。同時に音楽療法の主な対象となる知的発達遅滞、精神病、高齢者などの持つ障害や病状を理解し、その行動特徴などを学ぶ。
 なお以下の講義内容は場合により部分的に変更する場合がありますので注意すること。

●履修上の条件及び履修の方法

講義形式にて行う。参加学生は授業ごとにレポートを作成し提出する。
 並行して「音楽心理学」を履修することが望ましい。

●試験方法及び成績評価方法

授業での参加態度20%、レポートの内容と実践内容30%、期末テスト50%

●テキスト（必携）

＜No.1.＞書籍名：音楽療法入門（上巻）改訂版、著者名：デイビス 他（著）栗林文雄（訳）、出版社：一麦出版社
 ＜No.2.＞書籍名：ホスピスのこころを語る 音楽が拓くスピリチュアルとケア、著者名：柏木哲夫・栗林文雄、出版社：一麦出版社

●授業内容

- 1～4 音楽療法とは 教科書 1章から3章まで
 導入、コース課題、評価方法説明
 1. 音楽療法とは、音楽療法の定義、対象者、音楽療法士の資質、教育体制、音楽療法活動の特徴、音楽療法の種類
 2. 音楽療法の歴史、20世紀までの音楽と医療、近代的音楽療法の確立、米国と日本の音楽療法活動の現状
 3. 人間と音楽、人の成長と音楽活動、社会における音楽の役割
- 5～7 精神発達遅滞児と音楽療法 教科書 4章
 1. 精神発達遅滞児についての知識程度と種類、一般的特徴、原因
 2. その指導について、発達援助、教育的援助、収容施設総合福祉センター弘済学園で学んだこと
 3. 精神発達遅滞児に対する音楽療法音楽と知的障害者との出会い(ビデオ画像による資料)
- 8～11 精神障害と音楽療法 教科書 5章
 1. 精神障害についての知識、精神分裂病、感情障害、人格障害、不安障害、器質性脳症候群、薬物常用障害、接触障害など
 2. 人間行動の諸理論と音楽療法における応用、行動理論、精神力動理論、認知主義的理論、人間主義的理論、生医学的理論、選択的立場
- 12～15 高齢者の音楽療法 教科書 6章
 1. 高齢者の基礎的な知識、加齢化現象の一般的特徴、老化の理論
 2. 老化に関連した心身の障害、社会的な理論(離脱理論、活動理論、個人環境交流説、副次文化理論)
 3. 高齢者と音楽活動(ビデオ画像による資料)
 4. 音楽療法の実際、臨床実践とその意味

科目名	音楽療法総論Ⅱ	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	栗林 文雄	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

1年春学期の音楽療法総論Ⅰに続く音楽療法領域の基礎教養科目である。
この科目は音楽の機能を医療や福祉の分野に応用するために、音楽療法の多様な技術を知り、それを支えている諸理論を習得するための講義を中心とした導入のクラスである。同時に音楽療法の主な対象となる身体障害、自閉症、学習障害、感覚障害などを理解し、それぞれの患者の行動特徴などを学ぶ。
すべての授業は講義形式にておこなう。なお以下の講義内容は場合により部分的に変更する場合がありますので注意すること。

●履修上の条件及び履修の方法

講義形式にて行う。参加学生は授業ごとにレポートを作成し提出する。基本的に音楽療法総論Ⅰを春学期に履修した者が参加できる。その他の希望者は担当教官に相談の事。

●試験方法及び成績評価方法

授業での参加態度20%、レポートの内容と実践内容30%、期末テスト50%

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：音楽療法入門（下巻）改訂版、著者名：デビス 他（著）栗林文雄（訳）、出版社：一麦出版社
《No.2.》書籍名：ホスピスのこころを語る、著者名：柏木哲夫、栗林文雄、出版社：一麦出版社

●授業内容

- 1～3
再度、音楽療法とは
身体障がいについて、その種類、その音楽活動による援助の概要
自閉症児とは定義と診断、治療、自閉症児の音楽療法活動
- 4～6
感覚障がいと医療現場における音楽療法活動
聴覚器官、聴力失損とその種類、区分、その音楽活動
視覚障がいのための音楽療法
- 7～9
医療現場での音楽活動（ホスピスでの音楽療法）
- 10～12
神経科リハビリテーションにおける音楽療法
脳卒中、外傷性脳損傷についての基礎的理解
パーキンソン病とハンチントン病、その音楽療法活動
- 12～15
研究活動、卒論に向けて、まとめ

科目名	音楽療法の技能Ⅰ	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	廣川 恵理	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

- 音楽療法に必要な曲のレパートリーを広げる。
- ギターの基本的な伴奏技術を習得する。
- ピアノ伴奏、移調の練習をして、弾き歌いをしてグループ歌唱をリードできるように練習する。
- コードネームについて学ぶ。
- 音楽療法でよく用いられる歌曲について調べ知識を得る。

●履修上の条件及び履修の方法

欠席、遅刻、課題提出の遅れは減点となる。
各自で自主練習をして授業に臨むこと。
順番を決め、一学期中一人が数回ずつグループ歌唱の伴奏をして、合図を出し、弾き歌いをしながら歌唱をリードする。

●試験方法及び成績評価方法

民謡テスト10%、ピアノ弾き歌いテスト10%×3、ギター弾き歌いテスト10%×3、コードネームテスト10%、課題発表と提出10%、授業態度10%

●テキスト（必携）

《No.2.》書籍名：音楽療法の必須100曲 高齢者編、著者名：菅田文子 著、出版社：あおぞら音楽社
《No.2.》書籍名：音楽療法の必須100曲 子ども編、著者名：菅田文子 著、出版社：あおぞら音楽社

●授業内容

- 今学期に練習する曲の鑑賞。クラス歌唱をリードする順番を決める。
- 今学期に練習する曲の鑑賞、ギター弾き歌い練習、コードネーム、民謡練習
- 今学期に練習する曲の鑑賞、調べる曲の分担を決める、コードネーム、ギター、民謡
- ギター弾き歌い練習、民謡練習、コードネーム、歌唱
- 民謡練習、コードネーム、順番に歌唱をリードする、ギター弾き歌い練習
- 民謡テスト、コードネーム、順番に歌唱をリードする。
- コードネーム、順番に歌唱をリードする、ギター弾き歌い練習
- ギター弾き歌いテスト1、ピアノ弾き歌いテスト1、順番に歌唱をリードする。
- コードネームテスト、ギター弾き歌い練習、順番に歌唱をリードする。
- 課題発表、提出、ギター弾き歌い練習
- ギター弾き歌い練習、順番に歌唱をリードする。
- ギター弾き歌い練習、順番に歌唱をリードする。
- ギター弾き歌いテスト2、ピアノ弾き歌いテスト2、順番に歌唱をリードする
- ギター弾き歌い練習、ピアノ弾き歌い練習、順番に歌唱をリードする
- ギター弾き歌い練習、ピアノ弾き歌い練習、順番に歌唱をリードする
- ギター弾き歌いテスト3、ピアノ弾き歌いテスト3

科目名	音楽療法の技能Ⅱ	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	廣川 恵理	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

1. 音楽療法の活動において用いるための音階、リズム、和声進行などを学び、それらを用いた即興演奏の練習をする。
2. いろいろな楽器を用いて、柔軟性のある活動ができるようになるための基礎を学ぶ。

●履修上の条件及び履修の方法

- ・授業時間内だけでなく個人でそれぞれ自主練習をすること。
- ・いろいろな楽器を使うので、授業開始前に必要な楽器の準備を全員で協力して行うこと。
- ・専攻以外の学生で履修したい学生について、本来は、総論から順に履修することが望ましいが、専攻学生に対する配当年次を見ること。その学年以下の学生は履修できないものとする。

●試験方法及び成績評価方法

授業態度20%、モードのテスト10%、フレームドラムのテスト10%、5音音階のテスト10%、スペイン、アラビア風音階テスト10%、ブルースのテスト10%、ドラムサークルのテスト10%、ジャンベのテスト10%、沖縄音階テスト10%

- ・遅刻、欠席は減点の対象となる。

●テキスト（必携）

●授業内容

1. モードについて、モードの合奏
2. モードの合奏、即興、フレームドラムの奏法
3. モードの合奏、即興、フレームドラムの奏法、5音音階での合奏
4. 5音音階での即興合奏、フレームドラムの練習、I-VI-II-Vでの即興
5. 5音音階での即興合奏、I-VI-II-Vでの即興、ジャンベの奏法
*モードの演奏テスト、フレームドラムテスト
6. ジャンベの練習、沖縄音階での即興合奏、スペイン風、アラビア風音階
7. ジャンベの練習、沖縄音階、スペイン風、アラビア風音階
8. ジャンベのテスト、ベース4度下行2度上行型、沖縄、スペイン、アラビア風音階
9. 5音音階を使った即興テスト、スペイン、アラビア音階テスト、ベース4度↓2度↑型
10. ブルーススケールとコード進行、ジャンベグループリーダー練習、沖縄音階テスト
11. ドラムサークル、ジャンベグループリーダー練習、ブルース
12. ドラムサークル、ブルース、オルフ
13. ドラムサークル、ブルース、オルフ
14. ドラムサークル、ブルース、オルフ
15. ドラムサークルのテスト、ブルースのテスト

科目名	音楽療法の技能Ⅲ	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	廣川 恵理	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

1. ギター演奏で歌曲を弾き歌いする。
2. 代替コード、ヴォイシング、テンションなどについて学ぶ。
3. コードネームについて技能Ⅰに引き続き学ぶ。
4. 伴奏を弾きながら、クラスの歌をリードする。
5. 音楽療法でよく使用される曲について調べ、知識を得る。
6. トーンチャイム、ミュージックベル、その他の楽器を使った合奏を考え、その指揮をする。

●履修上の条件及び履修の方法

1. 練習曲を指定するので、その曲を授業中と自主的練習でマスターし、伴奏を弾き歌いしながらクラスの活動をリードできるようにする。
2. 自主的にギター、ピアノの練習をして試験に備えること。
3. 童謡、歌謡曲などについて調べ、発表をする。人数分コピーを用意する。
4. ミュージックベル、またはトーンチャイムの合奏を作り、授業中に指揮をして全員で演奏する。授業中に合奏の編曲が終わらない場合は、自分で作って合奏譜を全員分コピーをして持ってくること。

●試験方法及び成績評価方法

授業での参加態度10%、ギター弾き歌い8×3=24%、ピアノ弾き歌い10×3=30%、ピアノコード伴奏6%、コードネームテスト10%、合奏発表10%、曲を調べる課題の発表と提出10%
遅刻、欠席が多い場合は減点となるので注意すること。

●テキスト（必携）

- 《No.1.》書籍名：音楽療法の必須100曲 高齢者編 菅田文子著 あおぞら音楽社
- 《No.2.》書籍名：音楽療法の必須100曲 子ども編 菅田文子著 あおぞら音楽社
- 《No.3.》書籍名：音楽療法の必須100曲 おとな編 菅田文子著 あおぞら音楽社

●授業内容

1. 課題の割り当て、鑑賞
2. キーボード、ギター弾き歌い練習、コードネーム、鑑賞
3. キーボード、ギター弾き歌い練習、コードネーム、指揮
4. キーボード、ギター弾き歌い練習、コードネーム、指揮
5. キーボード、ギター弾き歌い練習、コードネーム、指揮（録画）
6. キーボード、ギター弾き歌い練習、コードネーム、伴奏付けについて
7. キーボード、ギター弾き歌い練習、コードネーム、伴奏付けについて
8. ピアノ、ギター弾き歌いテスト1、コードネーム、伴奏付けについて
9. 順番にピアノ伴奏で歌唱リード、キーボード、ピアノ弾き歌い練習
10. コードネームテスト、順番にピアノ伴奏で歌唱リード、合奏を考える
11. 順番にピアノ伴奏で歌唱リード、合奏を考える、キーボード、ギター引き歌い練習
12. 課題発表、提出、ピアノ伴奏テスト（コード）
13. 合奏、順番にピアノ伴奏で歌唱リード
14. ピアノ、ギター弾き歌いテスト2
15. キーボード、ギター弾き歌い練習
16. ピアノ、ギター弾き歌いテスト3

科目名	音楽療法の技法	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	廣川 恵理	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

1. 音楽療法のセッションを計画し、実践するために必要な知識と技術を学ぶ。
2. 行動修正の理論とテクニックを学ぶ。

●履修上の条件及び履修の方法

下記の課題を行い、提出すること。

1. 自分自身の行動修正を計画し、データを取り、レポートを提出する。計測、修正する行動、なぜその行動修正が自分にとって重要なのか、選択した技法（強化子など）、ベースラインデータ、操作後のデータ（表とグラフ作成）、まとめを書く。
2. 行動修正のテクニックを用いた音楽療法の活動計画を3つ作成し、提出する。そのうち1つは、クラスで発表する。

●試験方法及び成績評価方法

参加態度20%、行動修正レポート15%、活動計画30%、期末試験35%
遅刻、欠席、課題の提出遅れは原点となる。

●テキスト（必携）

＜No.1.＞書籍名：ミュージック・セラピスト・ハンドブック、著者名：スザンヌ・ハンサー、出版社：A T N. inc.

●授業内容

1. 課題の説明
2. 第1章：音楽療法の紹介、その他
3. 第2章：データに基づく音楽療法、その他
4. 第3章：音楽療法への依頼、その他
5. 第4章：初めてのセッション：関係を築く、その他
6. 第5章：アセスメント（査定）、その他
7. 第6章：目的と目標、対象行動、その他
8. 第7章：観察、その他
9. 第8章：音楽療法の方法、その他
10. 第9章：音楽療法のセッションプラン、その他
11. 第10章：音楽療法の実施、その他
12. 第11章：評価、その他、活動計画発表
13. 第12章：セッションの終結、その他、活動計画発表
14. まとめ、テストについての説明、活動計画発表
15. テスト

科目名	音響学	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	富士田 隆志	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

楽器などから出た音は、私達にどのようにして聴こえるのだろうか？
この科目では、音の発生から空間における音の伝わり方、そして耳での音の感じ方など、音響の基本的な捉えかたを習得すると共に、環境音響としての騒音や音楽の演奏・再生に有用な防音、音場に関する知識も学びます。

●履修上の条件及び履修の方法

講義の受講。
各回の授業において、テキスト以外に必要な資料を配布します。

●試験方法及び成績評価方法

最終回の授業で実施する筆記試験の結果に、出席状況を加味して評価します。

●テキスト（必携）

＜No.1.＞書籍名：音のなんでも小事典、著者名：編者 日本音響学会、出版社：講談社 ブルーバックB1150

●授業内容

1. シラバスの確認。／音響（学）、音とは
2. 音の発生と伝搬
3. 音の物理的表現
4. 音の共鳴、各種楽器の音響
5. 聴覚のしくみ
6. 音の感覚の3要素
7. 音のマスキング、音の方向知覚
8. 騒音
9. 防音
10. 音場 - 1 -
11. 音場 - 2 -
12. 電気音響
13. ホールなどの建築の音響 - 1 -
14. ホールなどの建築の音響 - 2 -
15. 音のデザイン／筆記試験

科目名	音声生理学	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	久野 佳也夫	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

発声指導に必要な基礎的知識の修得

●履修上の条件及び履修の方法

講義によっておこなう。予備知識は不要

●試験方法及び成績評価方法

講義中に提示する課題にもとづいたレポート提出。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 発声の成り立ち
- 2回 声帯粘膜の動き
- 3回 咽頭内筋群の動き
- 4回 肺を動かす筋
- 5回 構音運動
- 6回 姿勢を支える構造
- 7回 性別と声
- 8回 年齢と声
- 9回 栄養のとり方
- 10回 音の物理的理解
- 11回 プロの声 響きと倍音
- 12回 言語・方言
- 13回 聴覚概論
- 14回 環境・媒体による声の違い
- 15回 心理的問題と発声

科目名	音声病理学	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	久野 佳也夫	単位	2	年次	2

●授業科目の目標

発声の障害となる問題に関する基礎的知識の修得

●履修上の条件及び履修の方法

講義によっておこなう。予備知識は不要

●試験方法及び成績評価方法

講義中に提示する課題にもとづいたレポート提出

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 病的音声
- 2回 声の衛生
- 3回 音声治療
- 4回 温度と湿度
- 5回 カゼの成り立ち
- 6回 カゼの治療
- 7回 声帯ポリープ
- 8回 喉頭麻痺
- 9回 コトバの障害
- 10回 酒と薬
- 11回 タバコとホコリ
- 12回 呼吸の障害
- 13回 嚥下の障害
- 14回 難聴
- 15回 健康と病気